

キーワード

高齢者、社会的孤立、生活障害、生活インフラ

1. 調査の背景

(1) 筆者の先行研究

筆者は、ここ数年、高齢者の社会的孤立と生活問題（買い物や生活の困りごとなど）について実態調査を行ってきた。例えば、この種の筆者の先行研究としては、2010年枕崎市ひとり暮らし高齢者および高齢者夫婦調査、2010年鹿児島市宇宿地区ひとり暮らし高齢者調査、2011年鹿児島県内4自治体（鹿児島市、南さつま市、南大隅町、喜界町）ひとり暮らし高齢者調査である。

これらの調査の背景にある問題意識は、次のようなものであった。

第1に介護保険の導入を契機に福祉サービスのあり方がかわってきて、何らかの身体的な、生活障害を前提としてのサービス提供が主となり、ひとり暮らしといった社会的境遇を理由にした福祉サービスの比重が低くなってきたことである。これに伴い、それまでのデイサービスや給食サービス、その他のサービスが「介護予防」の名のもとに実施されるようになってきたこと。その意味で生活の支援の在り方をどう考えていくのかということが問題となった点。第2に、高齢者の孤独死等を契機として、社会的孤立についての問題が大きくなってきており、地域での社会的孤立が福祉サービスの提供の効果を下げていること、第3に、これと関連して、地域の側の疲弊、過疎化が進み、買い物弱者や食の砂漠¹といった、地域の生活インフラの状態が悪化してきており、このことが、社会的孤立と結びついて、高齢者の生活上の障害となっている点などである。

(2) 社会的孤立の定義

「社会的に孤立していること」と「孤独感を感じていること」を明確に区別したのは、タウンゼントであるとされている。彼は、「社会的に孤立しているというのは、家族やコミュニティとほとんど接触がないことであり、孤独であるというのは、仲間づきあいの欠如あるいは喪失による好ましからざる感じをもつことである」（タウンゼント1974:227）と述べており、それらが、客観的か主観的かによって区別している。その後、多くの研究者が、主観的な孤独感と区別して社会的孤立を取り扱うようになってきている。

ただ、タンストールのように、孤立 (alone) を上位概念として、その中に独居 (Living alone)、社会的孤立 (Social isolation)、孤独不安 (Loneliness)、アノミー (Anomie) の4つのカテゴリーを示している研究者もいる。（タンストール1978:53-57）

タウンゼントは、操作的に、人との接触 (contact) の程度、親族や隣人、友人、医療関係者やホームヘルパー等との接触を、1週間当たりどのくらい行っているかを社会的孤立の指標とした。

最近では、東京都港区や神奈川県鶴見区のひとり暮らし高齢者の調査研究において、河合が（1995年調査において）孤立の測定指標として以下の6点をあげ、これらの組み合わせから量的に把握使用としている（河合2009:

¹食の砂漠 (Food Deserts) とは、廉価で良質な生鮮食料品を入手することが事実上不可能となっているダウンタウンの一部エリアを意味する。自動車を所有しないために郊外のスーパーマーケットに買い物に行けない低所得者層は、中心商店街に残存する店舗での食材購入を強いられている。しかしそうした店舗では生鮮食料品や果物などの食料品を得ることはきわめて困難である。貧困な食糧事情は深刻な健康問題に帰着する。フードデザート問題が深刻化した結果、1990年代後半以降、ヨーロッパではガンや心臓病といった深刻な疾病が蔓延するに至っている。（田中2007:76）

288-289)。①子ども、親戚との関係、②正月三が日の過ごし方、③近隣関係、④友人関係、⑤社会参加状況、⑥緊急時の支援状況（河合は得点化の作業を取り入れていない）。

黒岩は、タンスツールに影響されながら、アノミーを除く3つの形態に注目し、最終的に、孤立（alone）を①ひとり暮らし、②物理的孤立、③関係的孤立、④孤独感の4つの形態に区分している。（黒岩2010:89）

高齢社会白書では、「社会的孤立」を「家族や地域社会との交流が、客観的にみて著しく乏しい状態」と規定し、具体的には「会話の頻度」、「頼れる人の有無」、「社会活動への参加や交流等の状況」を指標としている。（高齢社会白書2011：62）

筆者の研究では、社会的孤立を得点化するような操作化は避け、むしろ上記のような社会的孤立に関連する項目を一つ一つ取り上げながらクロス分析を行っている。また社会的孤立をタウンゼントや河合のように客観的概念として捉えながら、かつ主観的要素も併せて分析対象としている。社会福祉の観点に立つとき、そこで強調される社会的孤立は、単に他者との関係が希薄であるというのみならず、孤独死（孤立死）や事故死、虐待、セルフネグレクト、自殺といった危険を伴う社会的孤立に特別に焦点がある。その意味では「孤独感」があるなしに関わらず、社会的に孤立している状況を客観的に把握することは重要である。また、こうした社会的孤立は、生活インフラの整備等によってもある程度カバーできる可能性があることも考慮すべきであろう。

ただ地域福祉の目的が、安心安全な地域生活を保証していくことであるとすれば、「安心」という主観的な要素を抜きにして考えることもまた難しいと考える。

具体的には、本研究では社会的孤立関連指標として、1. 社会的接触の程度（①別居家族との連絡、②近所づきあいの程度、③会話の程度、④社会活動の程度²、⑤外出頻度）、2. 社会関係の程度（①友人数、②頼れる人の数）、3. 孤立不安（①孤独死不安、②頼れる人がいないこと不安、③孤独感）の3つの観点から検討をすすめる。

社会的接触と社会関係の違いは、社会的接触が相互作用の頻度を示しているのに対し、社会関係は継続的相互作用を行う機会のあることを示している。

（3）残された問題について

これまで、筆者が行ってきた高齢者の社会的孤立についての研究では、いくつか課題が残っていた。

1) 社会的に孤立している人は、アンケート調査では拾いきにくい。

社会的に孤立している人は、調査を行っても辞退されたり、調査不能であったりする場合もあり、こうした人たちの実態は、アンケート調査によっては十分に把握されていない。

2) 社会的に孤立している人は、ひとり暮らし高齢者ばかりではない。

例えば、子どもとの2人暮らしであっても、昼間はほぼ一人で暮らしている状態であったり、老老介護の状態、孤立しているケースなども想定でき、社会的孤立はひとり暮らし高齢者だけに特化したものではないと考えられる。

3) 本人と家族との回答の違い

家族同居の場合、あるいは近くで家族と別居しているひとり暮らし高齢者の場合、回答が本人ではなく、家族によってなされる場合もあり、回答が本人にニーズか家族のニーズによって回答に違いが見られるということはないかということである。

こうした課題を意識して、南九州市高齢者調査においては、ひとり暮らしや夫婦ばかりではなく、他の2人世帯（高齢者2人世帯や、若者との2人世帯）も調査対象とし、調査辞退者についても、わかる範囲で対象者の情報を調査員から求めている³。また質問項目の中に、家族による記入か、本人による記入かを区別する質問を設け

² 社会活動については、程度というよりは、活動しているか、していないかを聞いているので、カテゴリーとしては、2の「社会関係の程度」に含めるべきかも知れない。

³ 調査辞退者等についての分析は、今回は行っていない。

ている。

2. 南九州市高齢者調査の特徴

南九州市高齢者調査は、南九州市社会福祉協議会と鹿児島国際大学附置地域総合研究所との共同研究として進めてきたものである。南九州市の総人口は、38,909人、総世帯数は17,230世帯（H25.2.28現在）である。このうち高齢者は13190人、高齢化率は33.9%である。

(1) 調査対象

調査対象は、南九州市在住の高齢者のうち、ひとり暮らし高齢者、高齢者夫婦、夫婦を除く高齢者だけの2人世帯、そして高齢者と高齢者でない人の2人世帯の4類型である。平成25年時の人口をもとにしたこれらの区分は、以下のようになっている。

- ① 高齢者ひとり暮らし 3,932人（内、施設入所者 336人）
- ② 高齢者夫婦のみ 4,506人（内、施設入所者 2人） 2,253世帯 夫婦とも65歳以上
- ③ 高齢者2人暮らし世帯（高齢夫婦、独居を除く） 388人（内、施設入所者 0人） 194世帯
- ④ 高齢者1人と若者1人世帯 1,546人（内、施設入所者 0人） 773世帯

調査対象数を2000名で予定し、19.9%の割合で抽出を行い、以下のように対象を割り振った。

表1 調査対象の内訳

サンプル数	ひとり暮らし世帯	夫婦のみ世帯	高齢者2人世帯	それ以外の2人世帯	合計
調査依頼数	717	898	77	308	2000
調査表回収数	545	834	63	254	1696
回収率	76.0	92.9	81.8	82.5	84.8

また無効票は以下のように分類できる。

表2 無効票の分類

	ひとり暮らし世帯	夫婦のみ世帯	高齢者2人世帯	それ以外の2人世帯	合計
辞退	18	16	4	10	48
不在	17	5	2	2	26
入院・入所	107	29	7	29	172
移転	14	3	0	1	18
死亡	4	6	1	2	13
障害	0	0	0	2	2
未回収	12	5	0	8	25
合計	172	64	14	54	304

ただし入力の際で、無効票が20票（年齢が高齢者ではないなど）あり、最終的な有効票は1676票、回収率は83.8%である。

(2) 調査方法と調査時期

調査方法は、調査員の訪問による留置法を用い、調査員は、地域における声かけや見守りの担い手である在宅福祉アドバイザーにお願いした。調査期間は、平成25年6月20日から27日である。

(3) 調査項目

調査項目は、社会的孤立に関する質問のほか、福祉サービスの利用、交通の便や買い物、健康や栄養状態、経済状態等 51 問におよび、多岐にわたっている。

調査報告は、社会的孤立に関する調査結果を最初にのべ、次に生活問題についての調査結果を示す。

3. 調査結果

(1) サンプルの基本的属性

1) 回答記入者

回答記入者は、無回答を除いて 74.5%、本人が回答しており、それ以外は家族 21.0%、その他（調査員である在宅福祉アドバイザー等）が 4.5%となっている。ひとり暮らしでも本人が答えた者は、67.9%であり、3分の1は家族その他が答えていることがわかる。また高齢者2人世帯で 60.8%、それ以外の世帯でも 63.5%となっている。夫婦世帯が最も高く 83.4%である。

表3 家族形態1 と 回答記入者 のクロス表

	回答記入者					
	本人		家族		その他	
	度数	%	度数	%	度数	%
家族形態1 ひとり暮らし	307	67.9%	108	23.9%	37	8.2%
高齢者夫婦	558	83.4%	97	14.5%	14	2.1%
高齢者2人世帯	31	60.8%	17	33.3%	3	5.9%
それ以外の2人世帯	132	63.5%	68	32.7%	8	3.8%
合計	1028	74.5%	290	21.0%	62	4.5%

2) 家族形態別の年齢

それぞれの家族形態で、年齢による違いがあるかどうかをみると、ひとり暮らし80.3歳、夫婦世帯76.0歳、高齢者2人世帯81.1歳、それ以外の2人世帯79.6歳となっており、夫婦世帯が他に比べて、やや若くなっている。全体の平均年齢は、78.1歳である。

(2) 家族形態からみた社会的孤立

1) 社会的接触

①別居家族との連絡

別居家族との連絡の程度を聞いた質問では、「ほとんど毎日ある」が、ひとり暮らし世帯 30.7%で最も高く、ついで高齢者2人世帯 27.5%、夫婦世帯 25.4%、それ以外の世帯 19.6%の順である。「ほとんどない」に注目すると、2人世帯 7.8%、それ以外の世帯 3.2%、ひとり暮らし世帯 1.7%、高齢者世帯 1.2%の順となる。

この結果のポイントは、ひとり暮らしの高齢者である。他の世帯では、2人以上の家族であるので、ひとり暮らしは、別居家族との接触は、他の世帯以上に意味がある。「ひとり暮らしである」ということで、他の世帯よりも別居家族が連絡をとるのかとも思うが、これが性別にわけてみると、男性の人がやや連絡が少ないことが見て取れる。例えば、年1回以下は、男性のひとり暮らしでは 19.8%であるが、女性ひとり暮らしは 3.8%に過ぎない。

表4 家族形態1 と 別居家族との連絡 のクロス表

	別居家族との連絡	合計

		ほとんど毎 日ある	週1日以 上ある	月に1回から 3回はある	年に数回 はある	年に1回 はある	あまりない 数年に1度	ほとんどない	
家族 形態	ひとり暮らし 度数	147	136	121	44	11	12	8	479
	%	30.7%	28.4%	25.3%	9.2%	2.3%	2.5%	1.7%	100.0%
1	高齢者夫婦 度数	188	217	257	56	5	9	9	741
	%	25.4%	29.3%	34.7%	7.6%	.7%	1.2%	1.2%	100.0%
	高齢者2人世 帯 度数	14	19	8	5	0	1	4	51
	%	27.5%	37.3%	15.7%	9.8%	.0%	2.0%	7.8%	100.0%
	それ以外の2 人世帯 度数	43	46	74	44	2	3	7	219
	%	19.6%	21.0%	33.8%	20.1%	.9%	1.4%	3.2%	100.0%
合計	度数	392	418	460	149	18	25	28	1490
	%	26.3%	28.1%	30.9%	10.0%	1.2%	1.7%	1.9%	100.0%

表5 家族形態1 と 別居家族との連絡 と 性別 のクロス表

性別		別居家族との連絡							合計	
		ほとんど 毎日ある	週1日以 上ある	月に1回から 3回はある	年に数回 はある	年に1回 はある	あまりない、 数年に1度	ほとん どない		
男性	家族 形態	ひとり暮らし 度数	22	16	17	10	5	6	5	81
	%	27.2%	19.8%	21.0%	12.3%	6.2%	7.4%	6.2%	100.0%	
1	高齢者夫婦 度数	90	94	117	27	4	5	5	342	
	%	26.3%	27.5%	34.2%	7.9%	1.2%	1.5%	1.5%	100.0%	
	高齢者2人世 帯 度数	5	6	1	3	0	1	3	19	
	%	26.3%	31.6%	5.3%	15.8%	.0%	5.3%	15.8%	100.0%	
	それ以外の2 人世帯 度数	4	6	13	9	0	1	3	36	
	%	11.1%	16.7%	36.1%	25.0%	.0%	2.8%	8.3%	100.0%	
合計	度数	121	122	148	49	9	13	16	478	
	%	25.3%	25.5%	31.0%	10.3%	1.9%	2.7%	3.3%	100.0%	
女性	家族 形態	ひとり暮らし 度数	124	119	103	33	6	6	3	394
	%	31.5%	30.2%	26.1%	8.4%	1.5%	1.5%	.8%	100.0%	
1	高齢者夫婦 度数	95	121	137	28	1	4	3	389	
	%	24.4%	31.1%	35.2%	7.2%	.3%	1.0%	.8%	100.0%	
	高齢者2人世 帯 度数	9	13	6	2	0	0	1	31	
	%	29.0%	41.9%	19.4%	6.5%	.0%	.0%	3.2%	100.0%	
	それ以外の2 人世帯 度数	37	40	59	35	2	2	4	179	
	%	20.7%	22.3%	33.0%	19.6%	1.1%	1.1%	2.2%	100.0%	
合計	度数	265	293	305	98	9	12	11	993	
	%	26.7%	29.5%	30.7%	9.9%	.9%	1.2%	1.1%	100.0%	

②近所づきあい

近所づきあいの程度を聞いた質問では、最も親しい関係の人（自宅に行き来するつきあいの人がいる）で、ひとり暮らし世帯では66.3%、夫婦世帯で63.8%、高齢者2人世帯で61.0%、それ以外の世帯59.1%と世帯による違いはほとんどない。ひとり暮らし＝閉じこもりのような傾向はみられない。「ほとんど付き合いはない」というところをみると、ひとり暮らし世帯は6.0%と確かに他よりは多いが、高齢者2人世帯5.1%、それ以外の世帯5.9%とひとり暮らしと同じくらいである。

ところが、この結果を性別の変数を入れて、検討してみると男性、特にひとり暮らしの男性に近所づきあいの低さの傾向が顕著に見られることがわかる。男性は一般に近所づきあいの傾向が低いが、ことに、ひとり暮らし高齢者は、「自宅に行き来する付きあいの人がいる」は44.6%、「ほとんど付き合いはない」は10.9%となっている。これに対して女性は、「自宅に行き来する付きあいの人がいる」71.3%と最も多く、「ほとんど付き合いはない」も5.0%と男性のようには高くない。

表6 家族形態1 と ご近所づきあいのクロス表

			ご近所づきあい					合計
			自宅に行き来する付きあいの人がいる	立ち話をする程度	挨拶をする程度	集落の会合等であつて話をする程度	ほとんど付き合いはない	
家族形態1	ひとり暮らし	度数	343	87	38	18	31	517
		%	66.3%	16.8%	7.4%	3.5%	6.0%	100.0%
	高齢者夫婦	度数	488	162	65	31	19	765
		%	63.8%	21.2%	8.5%	4.1%	2.5%	100.0%
	高齢者2人世帯	度数	36	9	7	4	3	59
	%	61.0%	15.3%	11.9%	6.8%	5.1%	100.0%	
	それ以外の2人世帯	度数	140	54	22	7	14	237
		%	59.1%	22.8%	9.3%	3.0%	5.9%	100.0%
合計		度数	1007	312	132	60	67	1578
		%	63.8%	19.8%	8.4%	3.8%	4.2%	100.0%

表7 家族形態1 と ご近所づきあい と 性別 のクロス表

性別			ご近所づきあい					合計	
			自宅に行き来する付きあいの人がいる	立ち話をする程度	挨拶をする程度	集落の会合等であつて話をする	ほとんど付き合いはない		
男性	家族形態1	ひとり暮らし	度数	41	14	15	12	10	92
			%	44.6%	15.2%	16.3%	13.0%	10.9%	100.0%
		高齢者夫婦	度数	207	83	36	17	12	355
			%	58.3%	23.4%	10.1%	4.8%	3.4%	100.0%
		高齢者2人世帯	度数	10	6	4	2	0	22
		%	45.5%	27.3%	18.2%	9.1%	.0%	100.0%	

	それ以外の2 人世帯	度数	21	10	6	0	2	39
		%	53.8%	25.6%	15.4%	.0%	5.1%	100.0%
合計		度数	279	113	61	31	24	508
		%	54.9%	22.2%	12.0%	6.1%	4.7%	100.0%
女性	家族 形態	ひとり暮らし	度数	300	71	23	6	421
			%	71.3%	16.9%	5.5%	1.4%	100.0%
1		高齢者夫婦	度数	276	79	29	11	401
			%	68.8%	19.7%	7.2%	2.7%	100.0%
		高齢者2人世 帯	度数	25	3	3	2	36
			%	69.4%	8.3%	8.3%	5.6%	100.0%
		それ以外の2 人世帯	度数	118	43	15	7	194
			%	60.8%	22.2%	7.7%	3.6%	100.0%
合計		度数	719	196	70	26	41	1052
		%	68.3%	18.6%	6.7%	2.5%	3.9%	100.0%

③会話の程度

会話の程度を聞いた質問では、「毎日誰かと話している」をみるとひとり暮らしは74.6%と全体の中では最も低く、「誰とも話さない日が週2日以上ある」という者では、11.7%程度で、他の世帯と比べても高くなっている。(夫婦0.4%、2人世帯1.6%、それ以外の世帯1.2%)

ひとり暮らしであるから他の世帯に比べて、会話の機会が少なくなりがちだろうということは、ある程度予想がつく。性別で見ると全体的にはそれほど差はないが、ひとり暮らしに特化した場合は、男性は「毎日誰かと話している」は66.3%、女性の76.7%と比べると10%ほど低い。また「誰とも話さない日が週2日以上」という人は、ひとり暮らし男性では、21.7%で、女性の9.4%と比べると差がある。

例えば、平成24年7月に国立社会保障・人口問題研究所が実施した「生活と支え合いに関する調査」(約1万1千世帯、約2万1千人が回答)によれば、1人暮らしの65歳以上では男性50.0%、女性62.8%と低かった。「2～3日に1回」は男性18.3%、女性24.9%、「4～7日に1回」は男性15.1%、女性8.4%という数字が出ており、(国立社会保障・人口問題研究所：2012)これらの平均に比べると、南九州市の調査では10%ほど高くなっている。

表8 家族形態1と会話のクロス表

		会話					合計		
		毎日誰かと話している	誰とも話さない日が週1日	誰とも話さない日週2,3日	誰とも話さない日週4,5日	週6日以上話さない			
家族	ひとり暮らし	度数	382	70	39	12	9	512	
		%	74.6%	13.7%	7.6%	2.3%	1.8%	100.0%	
1		高齢者夫婦	度数	749	10	16	1	2	778
			%	96.3%	1.3%	2.1%	.1%	.3%	100.0%

高齢者2人世帯	度数	57	1	3	0	1	62
	%	91.9%	1.6%	4.8%	.0%	1.6%	100.0%
それ以外の2人世帯	度数	222	8	4	2	1	237
	%	93.7%	3.4%	1.7%	.8%	.4%	100.0%
合計	度数	1410	89	62	15	13	1589
	%	88.7%	5.6%	3.9%	.9%	.8%	100.0%

表9 家族形態1と会話と性別のクロス表

性別	会話					合計		
	毎日誰かと話している	誰とも話さない日が週1日	誰とも話さない日週2,3日	誰とも話さない日週4,5日	週6日以上話さない			
男性 家族形態1	ひとり暮らし	度数	61	11	11	4	5	92
		%	66.3%	12.0%	12.0%	4.3%	5.4%	100.0%
	高齢者夫婦	度数	350	6	7	0	1	364
		%	96.2%	1.6%	1.9%	.0%	.3%	100.0%
	高齢者2人世帯	度数	18	1	3	0	1	23
		%	78.3%	4.3%	13.0%	.0%	4.3%	100.0%
それ以外の2人世帯	度数	31	5	0	1	1	38	
	%	81.6%	13.2%	.0%	2.6%	2.6%	100.0%	
合計	度数	460	23	21	5	8	517	
	%	89.0%	4.4%	4.1%	1.0%	1.5%	100.0%	
女性 家族形態1	ひとり暮らし	度数	319	58	27	8	4	416
		%	76.7%	13.9%	6.5%	1.9%	1.0%	100.0%
	高齢者夫婦	度数	389	4	8	1	1	403
		%	96.5%	1.0%	2.0%	.2%	.2%	100.0%
	高齢者2人世帯	度数	38	0	0	0	0	38
		%	100.0%	.0%	.0%	.0%	.0%	100.0%
それ以外の2人世帯	度数	188	3	4	1	0	196	
	%	95.9%	1.5%	2.0%	.5%	.0%	100.0%	
合計	度数	934	65	39	10	5	1053	
	%	88.7%	6.2%	3.7%	.9%	.5%	100.0%	

④社会活動の程度

社会活動として、ここでは「老人クラブやふれあいサロン」と「ボランティア活動」そして、「自治会活動」の3つを取り上げる。

<老人クラブやふれあいサロンへの参加>

南九州市の老人クラブの加入率は、65歳以上で37.8%である。(平成23年度)調査では老人クラブとふれあ

いサロンが一緒になっているが⁴、「現在参加している」がひとり暮らし高齢者 25.1%であり、夫婦世帯では 33.7%、高齢者 2 人世帯では 26.9%、それ以外の世帯は 21.5%となっている。⁵また「今後参加してみたい」はどの世帯も 1 割台である。ひとり暮らしは、夫婦世帯や 2 人世帯よりは「現在参加している」は低くなっている。

性別で見ると、全体的に女性の方が参加しているが、特にひとり暮らしの場合は、「現在参加している」は男性 13.5%に対して、女性 28.0%と女性に多い。また「参加しない」も男性 57.3%、女性 38.3%と、男性の参加意識は低いようである。

表10 家族形態 1 と 老人クラブやふれあいサロンのクロス表

			老人クラブやふれあいサロン				合計
			現在参加して いる	過去に参加 していた	今後参加してみ たい	参加しないと 思う	
1	家族 ひとり暮らし	度数	116	91	60	196	463
	形態	%	25.1%	19.7%	13.0%	42.3%	100.0%
	高齢者夫婦	度数	242	108	140	228	718
		%	33.7%	15.0%	19.5%	31.8%	100.0%
	高齢者 2 人世帯	度数	14	10	6	22	52
	%	26.9%	19.2%	11.5%	42.3%	100.0%	
	それ以外の 2 人世帯	度数	48	46	26	103	223
		%	21.5%	20.6%	11.7%	46.2%	100.0%
合計		度数	420	255	232	549	1456
		%	28.8%	17.5%	15.9%	37.7%	100.0%

表11 家族形態 1 と 老人クラブやふれあいサロン と 性別 のクロス表

性別			老人クラブやふれあいサロン				合計
			現在参加して いる	過去に参加 していた	今後参加してみ たい	参加しないと思 う	
1	男性 家族 ひとり暮らし	度数	12	8	18	51	89
	形態	%	13.5%	9.0%	20.2%	57.3%	100.0%
	高齢者夫婦	度数	103	53	66	113	335
		%	30.7%	15.8%	19.7%	33.7%	100.0%
	高齢者 2 人世帯	度数	5	5	3	6	19
	%	26.3%	26.3%	15.8%	31.6%	100.0%	
	それ以外の 2 人世帯	度数	9	6	4	18	37
		%	24.3%	16.2%	10.8%	48.6%	100.0%
合計		度数	129	72	91	188	480

⁴ 社協側からの申し出で、ふれあいサロンは老人クラブと同一のような気持ちが高齢者が持っていると言うことで、1つに表記している。

⁵ 過去の 4 自治体ひとり暮らし高齢者調査においては、実際の老人クラブ加入率が南九州市とほぼ同様（35.8%）の南大隅町の 31.6%や、加入率 25.6%の南さつま市の 33.5%よりも低い、サンプリングの問題があった過去の調査よりは信憑性が高いと言えるかもしれない。

	%	26.9%	15.0%	19.0%	39.2%	100.0%	
女性 家族 ひとり暮らし	度数	104	83	42	142	371	
形態	%	28.0%	22.4%	11.3%	38.3%	100.0%	
1	高齢者夫婦	度数	135	52	74	113	374
	%	36.1%	13.9%	19.8%	30.2%	100.0%	
	高齢者2人世帯	度数	9	4	3	16	32
	%	28.1%	12.5%	9.4%	50.0%	100.0%	
	それ以外の2人世帯	度数	38	39	22	84	183
	%	20.8%	21.3%	12.0%	45.9%	100.0%	
合計	度数	286	178	141	355	960	
	%	29.8%	18.5%	14.7%	37.0%	100.0%	

<奉仕活動やボランティア活動への参加>

奉仕活動やボランティア活動に関しては「現在参加している」が、夫婦世帯27.6%で最も多く、ついでそれ以外の2人世帯18.2%、ひとり暮らしが16.4%、高齢者2人世帯16.0%の順となっている。

性別でみると、全体としては「現在参加している」男性の方が多くなっている（男性29.0%、女性18.6%）。他調査と同様に奉仕活動やボランティア活動に関しては男性の参加率が高い。ただし本調査の場合、ひとり暮らしの男女さは大きなものではなく、やや女性の方が多いという結果になっている（男性15.4%、女性16.8%）

表12 家族形態1と奉仕活動やボランティアのクロス表

		奉仕活動やボランティア				合計	
		現在参加している	過去に参加していた	今後参加してみたい	参加しないと思う		
家族 ひとり暮らし	度数	73	79	45	248	445	
形態	%	16.4%	17.8%	10.1%	55.7%	100.0%	
1	高齢者夫婦	度数	185	127	120	239	671
	%	27.6%	18.9%	17.9%	35.6%	100.0%	
	高齢者2人世帯	度数	8	8	7	27	50
	%	16.0%	16.0%	14.0%	54.0%	100.0%	
	それ以外の2人世帯	度数	40	46	19	115	220
	%	18.2%	20.9%	8.6%	52.3%	100.0%	
合計	度数	306	260	191	629	1386	
	%	22.1%	18.8%	13.8%	45.4%	100.0%	

表13 家族形態1と奉仕活動やボランティアと性別のクロス表

性別	奉仕活動やボランティア	合計

				現在参加 している	過去に参加 していた	今後参加してみ たい	参加しないと 思う	
男性	家族 形態	ひとり暮らし	度数	14	14	14	49	91
			%	15.4%	15.4%	15.4%	53.8%	100.0%
	1	高齢者夫婦	度数	109	63	51	99	322
			%	33.9%	19.6%	15.8%	30.7%	100.0%
		高齢者2人世 帯	度数	4	3	3	7	17
			%	23.5%	17.6%	17.6%	41.2%	100.0%
	それ以外の2 人世帯	度数	8	11	1	16	36	
		%	22.2%	30.6%	2.8%	44.4%	100.0%	
	合計	度数	135	91	69	171	466	
		%	29.0%	19.5%	14.8%	36.7%	100.0%	
女性	家族 形態	ひとり暮らし	度数	59	65	31	196	351
			%	16.8%	18.5%	8.8%	55.8%	100.0%
	1	高齢者夫婦	度数	73	63	66	138	340
			%	21.5%	18.5%	19.4%	40.6%	100.0%
		高齢者2人世 帯	度数	4	5	4	19	32
			%	12.5%	15.6%	12.5%	59.4%	100.0%
	それ以外の2 人世帯	度数	32	34	18	97	181	
		%	17.7%	18.8%	9.9%	53.6%	100.0%	
	合計	度数	168	167	119	450	904	
		%	18.6%	18.5%	13.2%	49.8%	100.0%	

<自治会活動>

自治会活動をみると全体で4割から5割の人は「現在参加している」と答えている。その中では夫婦世帯が56.2%と最も高く、他の3つの世帯は、ひとり暮らし43.0%、高齢者夫婦42.3%、それ以外の2人世帯42.0%と大差はない。

性別の要素を加えても、この順はほとんど変わらない。男性と女性では若干男性の方が高い。「参加しないと思う」というところで男性のひとり暮らしが36.4%となっており、他と比較して多いが、「過去に参加していた」の中には、「過去に参加していたが今は参加していない。今後も参加しない」とする意見も多く、これらを合わせるとその差は大きなものではなくなる。

表14 家族形態1 と 自治会活動 のクロス表

	自治会活動				合計
	現在参加してい る	過去に参加 していた	今後参加してみ たい	参加しないと 思う	
家族形 ひとり暮らし 度数	195	104	23	131	453

態 1	%	43.0%	23.0%	5.1%	28.9%	100.0%
高齢者夫婦	度数	399	146	46	119	710
	%	56.2%	20.6%	6.5%	16.8%	100.0%
高齢者 2 人世帯	度数	22	13	3	14	52
	%	42.3%	25.0%	5.8%	26.9%	100.0%
それ以外の 2 人世帯	度数	95	67	8	56	226
	%	42.0%	29.6%	3.5%	24.8%	100.0%
合計	度数	711	330	80	320	1441
	%	49.3%	22.9%	5.6%	22.2%	100.0%

表15 家族形態 1 と 自治会活動 と 性別 のクロス表

性別			自治会活動				合計	
			現在参加している	過去に参加していた	今後参加してみたい	参加しないと思う		
男性	家族形態 1	ひとり暮らし	度数	36	14	6	32	88
			%	40.9%	15.9%	6.8%	36.4%	100.0%
	1	高齢者夫婦	度数	192	70	17	59	338
			%	56.8%	20.7%	5.0%	17.5%	100.0%
		高齢者 2 人世帯	度数	9	4	1	4	18
			%	50.0%	22.2%	5.6%	22.2%	100.0%
		それ以外の 2 人世帯	度数	18	12	1	6	37
		%	48.6%	32.4%	2.7%	16.2%	100.0%	
合計		度数	255	100	25	101	481	
		%	53.0%	20.8%	5.2%	21.0%	100.0%	
女性	家族形態 1	ひとり暮らし	度数	159	89	17	96	361
			%	44.0%	24.7%	4.7%	26.6%	100.0%
	1	高齢者夫婦	度数	202	74	29	59	364
			%	55.5%	20.3%	8.0%	16.2%	100.0%
		高齢者 2 人世帯	度数	13	9	2	9	33
			%	39.4%	27.3%	6.1%	27.3%	100.0%
		それ以外の 2 人世帯	度数	76	55	7	48	186
		%	40.9%	29.6%	3.8%	25.8%	100.0%	
合計		度数	450	227	55	212	944	
		%	47.7%	24.0%	5.8%	22.5%	100.0%	

⑤外出頻度

<生活に必要な外出>

「生活に必要な外出頻度」を聞いた質問では、「ほぼ毎日」に注目すると、多い順に、夫婦31.1%、高齢者2人世帯30.5%、ひとり暮らし23.7%、それ以外の2人世帯23.3%となっており、大きな差はないが、「ほとんどしない」に注目すると、高齢者2人世帯11.9%、それ以外の2人世帯10.3%、ひとり暮らし9.5%、高齢者夫婦4.5%となっている。

週1日以上か、以下かを基準に区切ってみると、高齢者夫婦世帯30.5%、それ以外の2人世帯26.3%とひとり暮らし25.4%以上に週1日未満が多いことがわかる。生活に必要な外出は他の家族にやってもらうということがあるためか。確かにひとり暮らしは、自分でやらねばならないということだろうが、しかし夫婦世帯は2名だが、外出頻度は最も高い。

性別でみると、外出頻度は、ひとり暮らし男性よりも女性の方が低い傾向がある。「ほぼ毎日」は男性37.1%に対して女性20.5%、「ほとんどなし」はひとり暮らし男性6.7%に対して女性10.2%である。また特に高齢者2人世帯の女性は16.7%、それ以外の2人世帯10.8%と高くなっている。

表16 家族形態1 と 生活に必要な外出 のクロス表

		生活に必要な外出					合計
		ほぼ毎日	週3～4 日程度	週1～2 日程度	1ヶ月1～ 3回	ほとんど しない	
家族 形態	ひとり暮らし	度数 119	139	117	80	48	503
	%	23.7%	27.6%	23.3%	15.9%	9.5%	100.0%
1	高齢者夫婦	度数 235	220	200	66	34	755
	%	31.1%	29.1%	26.5%	8.7%	4.5%	100.0%
	高齢者2人世 帯	度数 18	11	12	11	7	59
	%	30.5%	18.6%	20.3%	18.6%	11.9%	100.0%
	それ以外の2 人世帯	度数 54	58	59	37	24	232
	%	23.3%	25.0%	25.4%	15.9%	10.3%	100.0%
合計	度数	426	428	388	194	113	1549
	%	27.5%	27.6%	25.0%	12.5%	7.3%	100.0%

表17 家族形態1 と 生活に必要な外出 と 性別 のクロス表

性別		生活に必要な外出					合計
		ほぼ毎日	週3～4日 程度	週1～2 日程度	1ヶ月1～ 3回	ほとんど しない	
男性	家族 形態	ひとり暮らし 度数 33	23	15	12	6	89
	%	37.1%	25.8%	16.9%	13.5%	6.7%	100.0%
1	高齢者夫婦	度数 117	94	89	38	14	352
	%	33.2%	26.7%	25.3%	10.8%	4.0%	100.0%
	高齢者2人世 帯	度数 11	3	4	4	0	22
	%	50.0%	13.6%	18.2%	18.2%	.0%	100.0%

	それ以外の2人世帯	度数	9	7	12	6	3	37	
		%	24.3%	18.9%	32.4%	16.2%	8.1%	100.0%	
合計		度数	170	127	120	60	23	500	
		%	34.0%	25.4%	24.0%	12.0%	4.6%	100.0%	
女性	家族形態	ひとり暮らし	度数	84	115	101	68	42	410
			%	20.5%	28.0%	24.6%	16.6%	10.2%	100.0%
1		高齢者夫婦	度数	116	124	107	26	19	392
			%	29.6%	31.6%	27.3%	6.6%	4.8%	100.0%
		高齢者2人世帯	度数	7	8	8	7	6	36
			%	19.4%	22.2%	22.2%	19.4%	16.7%	100.0%
		それ以外の2人世帯	度数	45	50	46	31	21	193
			%	23.3%	25.9%	23.8%	16.1%	10.9%	100.0%
合計		度数	252	297	262	132	88	1031	
		%	24.4%	28.8%	25.4%	12.8%	8.5%	100.0%	

<余暇活動における外出>

余暇活動においては「ほぼ毎日」では高齢者夫婦世帯が18.4%で最も多く、ついで高齢者2人世帯14.3%、ひとり暮らし12.2%、それ以外の2人世帯が7.8%で最も低かった。逆に「ほとんどしない」を見ると、ひとり暮らし37.2%、高齢者2人世帯36.7%、それ以外の2人世帯32.2%、高齢者夫婦23.0%の順であった。

これに性別の要素を加えると、「ほぼ毎日」は比較的に男性に多いことがわかる。男性は、高齢者夫婦23.1%、ひとり暮らし21.0%であり、高齢者2人世帯も20.0%であるが、それ以外の2人世帯では9.1%と低い。女性の場合は「ほぼ毎日」は1割台で、高齢者夫婦13.5%、2人世帯12.1%、ひとり暮らし10.1%、それ以外の2人世帯では7.8%である。「ほとんどしない」は男性ひとり暮らしが30.9%で男性中では最も多いが、女性ではひとり暮らしは38.8%、それより多いのが2人世帯42.4%となっている。

ここでも高齢者2人世帯、あるいはそれ以外の2人世帯も、ひとり暮らしと同様に、あるいは、それ以上に外出が少ないことがわかる。

表18 家族形態1 と 余暇のための外出 のクロス表

	余暇のための外出					合計			
	ほぼ毎日	週3～4 日程度	週1～2 日程度	1ヶ月1～ 3回	ほとんど しない				
家族形態	ひとり暮らし	度数	52	77	74	65	159	427	
		%	12.2%	18.0%	17.3%	15.2%	37.2%	100.0%	
1		高齢者夫婦	度数	118	122	145	113	149	647
			%	18.2%	18.9%	22.4%	17.5%	23.0%	100.0%
		高齢者2人世帯	度数	7	7	8	9	18	49
			%	14.3%	14.3%	16.3%	18.4%	36.7%	100.0%
		それ以外の2人世帯	度数	16	39	42	40	65	202

人世帯	%	7.9%	19.3%	20.8%	19.8%	32.2%	100.0%
合計	度数	193	245	269	227	391	1325
	%	14.6%	18.5%	20.3%	17.1%	29.5%	100.0%

表19 家族形態1 と 余暇のための外出 と 性別 のクロス表

性別	余暇のための外出					合計			
	ほぼ毎日	週3～4 日程度	週1～2 日程度	1ヶ月1 ～3回	ほとんど しない				
男性	家族形態1	ひとり暮らし	度数	17	10	16	13	25	81
			%	21.0%	12.3%	19.8%	16.0%	30.9%	100.0%
		高齢者夫婦	度数	69	59	62	46	63	299
			%	23.1%	19.7%	20.7%	15.4%	21.1%	100.0%
		高齢者2人世帯	度数	3	2	4	3	3	15
			%	20.0%	13.3%	26.7%	20.0%	20.0%	100.0%
		それ以外の2人世帯	度数	3	6	7	8	9	33
			%	9.1%	18.2%	21.2%	24.2%	27.3%	100.0%
		合計	度数	92	77	89	70	100	428
			%	21.5%	18.0%	20.8%	16.4%	23.4%	100.0%
女性	家族形態1	ひとり暮らし	度数	35	66	58	52	134	345
			%	10.1%	19.1%	16.8%	15.1%	38.8%	100.0%
		高齢者夫婦	度数	46	63	83	65	84	341
			%	13.5%	18.5%	24.3%	19.1%	24.6%	100.0%
		高齢者2人世帯	度数	4	5	4	6	14	33
			%	12.1%	15.2%	12.1%	18.2%	42.4%	100.0%
		それ以外の2人世帯	度数	13	33	34	31	56	167
			%	7.8%	19.8%	20.4%	18.6%	33.5%	100.0%
		合計	度数	98	167	179	154	288	886
			%	11.1%	18.8%	20.2%	17.4%	32.5%	100.0%

2) 社会関係の程度 (①地域の中での役割、②友人数、③頼れる人の数)

①地域の中での役割

地域の中での役割を聞いた質問では、「現在している」というものが、夫婦世帯19.5%と最も多く、ついでひとり暮らし9.3%、高齢者とそれ以外の2人世帯9.2%、高齢者2人世帯3.4%となっている。

性別を入れて考えると、全体的に男性の参加が多く、特に夫婦世帯での男性は、25.4%が地域の中に役割を持っている。ひとり暮らしは12.0%である。それ以外の2人世帯は7.7%高齢者、2人世帯は4.8%であり、男性でも夫婦世帯以外は役割を持っていない人も多い。また女性の場合は、男性に比べ地域の中での役割を持っておらず、夫婦世帯14.5%、ひとり暮らし8.8%、高齢者2人世帯2.8%、それ以外の2人世帯9.6%となっていた。

表20 家族形態1 と 地域の中の役割 のクロス表

			地域の中の役割			合計
			現在している	以前はしていた	経験なし	
家族形態1	ひとり暮らし	度数	45	197	241	483
		%	9.3%	40.8%	49.9%	100.0%
	高齢者夫婦	度数	142	380	206	728
		%	19.5%	52.2%	28.3%	100.0%
	高齢者2人世帯	度数	2	30	26	58
		%	3.4%	51.7%	44.8%	100.0%
	それ以外の2人世帯	度数	21	87	120	228
		%	9.2%	38.2%	52.6%	100.0%
合計		度数	210	694	593	1497
		%	14.0%	46.4%	39.6%	100.0%

表21 家族形態1 と 地域の中の役割 と 性別 のクロス表

性別			地域の中の役割			合計	
			現在している	以前はしていた	経験なし		
男性	ひとり暮らし	度数	11	39	42	92	
		%	12.0%	42.4%	45.7%	100.0%	
	1	高齢者夫婦	度数	88	202	56	346
			%	25.4%	58.4%	16.2%	100.0%
		高齢者2人世帯	度数	1	15	5	21
			%	4.8%	71.4%	23.8%	100.0%
	それ以外の2人世帯	度数	3	23	13	39	
		%	7.7%	59.0%	33.3%	100.0%	
	合計	度数	103	279	116	498	
		%	20.7%	56.0%	23.3%	100.0%	
女性	ひとり暮らし	度数	34	155	198	387	
		%	8.8%	40.1%	51.2%	100.0%	
	1	高齢者夫婦	度数	54	173	146	373
			%	14.5%	46.4%	39.1%	100.0%
		高齢者2人世帯	度数	1	15	20	36
			%	2.8%	41.7%	55.6%	100.0%
	それ以外の2人世帯	度数	18	63	106	187	
		%	9.6%	33.7%	56.7%	100.0%	
	合計	度数	107	406	470	983	

表21 家族形態1 と 地域の中の役割 と 性別 のクロス表

性別		地域の中の役割			合計		
		現在している	以前はしていた	経験なし			
男性	家族形態1	ひとり暮らし	度数	11	39	42	92
			%	12.0%	42.4%	45.7%	100.0%
		高齢者夫婦	度数	88	202	56	346
			%	25.4%	58.4%	16.2%	100.0%
		高齢者2人世帯	度数	1	15	5	21
			%	4.8%	71.4%	23.8%	100.0%
		それ以外の2人世帯	度数	3	23	13	39
			%	7.7%	59.0%	33.3%	100.0%
	合計		度数	103	279	116	498
			%	20.7%	56.0%	23.3%	100.0%
女性	家族形態1	ひとり暮らし	度数	34	155	198	387
			%	8.8%	40.1%	51.2%	100.0%
		高齢者夫婦	度数	54	173	146	373
			%	14.5%	46.4%	39.1%	100.0%
		高齢者2人世帯	度数	1	15	20	36
			%	2.8%	41.7%	55.6%	100.0%
		それ以外の2人世帯	度数	18	63	106	187
			%	9.6%	33.7%	56.7%	100.0%
	合計		度数	107	406	470	983
			%	10.9%	41.3%	47.8%	100.0%

②友人の数（6人以上は6人と表記）

友人数を聞いた質問では、友人ゼロが、ひとり暮らし6.8%が多いが、それ以外の2人世帯が7.3%で最も多くなっている。続いて高齢者2人世帯4.0%、夫婦世帯3.8%である。

友人ゼロに1, 2人という少数を合わせると、それ以外の2人世帯は23.3%、高齢者2人世帯22.0%、ついでひとり暮らし20.0%、高齢者夫婦14.8%の順になる。性別の変数を加えると、友人ゼロがひとり暮らしの男性に多いことが見えてくる。男性は12.3%であり、女性5.4%の倍以上である。

表22 家族形態1 と 友人数 のクロス表

			友人数				合計
			0人	1, 2人	3~5人	6人以上	
家族形態1	ひとり暮らし	度数	31	60	172	190	453
		%	6.8%	13.2%	38.0%	41.9%	100.0%
	高齢者夫婦	度数	27	78	185	421	711

	%	3.8%	11.0%	26.0%	59.2%	100.0%
高齢者2人世帯	度数	2	9	16	23	50
	%	4.0%	18.0%	32.0%	46.0%	100.0%
それ以外の2人世帯	度数	16	35	65	103	219
	%	7.3%	16.0%	29.7%	47.0%	100.0%
合計	度数	76	182	438	737	1433
	%	5.3%	12.7%	30.6%	51.4%	100.0%

表23 家族形態1 と 友人数 と 性別 のクロス表

性別				友人数				合計	
				0人	1, 2人	3~5人	6人以上		
男性	家族形態1	ひとり暮らし	度数	10	15	24	32	81	
			%	12.3%	18.5%	29.6%	39.5%	100.0%	
		高齢者夫婦	度数	17	36	78	204	335	
			%	5.1%	10.7%	23.3%	60.9%	100.0%	
		高齢者2人世帯	度数	1	4	7	7	19	
			%	5.3%	21.1%	36.8%	36.8%	100.0%	
		それ以外の2人世帯	度数	2	4	6	25	37	
			%	5.4%	10.8%	16.2%	67.6%	100.0%	
	合計			度数	30	59	115	268	472
				%	6.4%	12.5%	24.4%	56.8%	100.0%
女性	家族形態1	ひとり暮らし	度数	20	45	148	157	370	
			%	5.4%	12.2%	40.0%	42.4%	100.0%	
		高齢者夫婦	度数	10	40	106	214	370	
			%	2.7%	10.8%	28.6%	57.8%	100.0%	
		高齢者2人世帯	度数	1	5	9	15	30	
			%	3.3%	16.7%	30.0%	50.0%	100.0%	
		それ以外の2人世帯	度数	14	30	57	77	178	
			%	7.9%	16.9%	32.0%	43.3%	100.0%	
	合計			度数	45	120	320	463	948
				%	4.7%	12.7%	33.8%	48.8%	100.0%

③頼れる人

いざという時頼れる人の数では、ゼロに注目すると、ひとり暮らしが2.3%である。1, 2人も18.3%であり、両方を足すと20.6%になる。高齢者2人世帯では1.8%、それ以外の2人世帯では1.4%、高齢者夫婦は0.8%の順である。

性別の変数を導入すると、男性の場合、ひとり暮らし高齢者はゼロが4.7%になり、「1, 2人」を含めると

34.9%になる。高齢者2人世帯もゼロが4.8%、「1，2人」を含めると28.6%になる。女性の場合はいくらか多くはない。「頼れる人」もひとり暮らし男性が少ないようである。

表24 家族形態1 と 頼れる人 のクロス表

			頼れる人				合計
			0人	1, 2人	3～5人	6人以上	
家族形態1	ひとり暮らし	度数	11	89	166	221	487
		%	2.3%	18.3%	34.1%	45.4%	100.0%
	高齢者夫婦	度数	6	75	196	459	736
		%	.8%	10.2%	26.6%	62.4%	100.0%
	高齢者2人世帯	度数	1	9	21	26	57
		%	1.8%	15.8%	36.8%	45.6%	100.0%
	それ以外の2人世帯	度数	3	31	89	98	221
		%	1.4%	14.0%	40.3%	44.3%	100.0%
合計		度数	21	204	472	804	1501
		%	1.4%	13.6%	31.4%	53.6%	100.0%

表25 家族形態1 と 頼れる人 と 性別 のクロス表

性別			頼れる人				合計	
			0人	1, 2人	3～5人	6人以上		
男性	家族形態1	ひとり暮らし	度数	4	26	28	28	86
		%	4.7%	30.2%	32.6%	32.6%	100.0%	
		高齢者夫婦	度数	2	39	86	222	349
		%	.6%	11.2%	24.6%	63.6%	100.0%	
		高齢者2人世帯	度数	1	5	7	8	21
		%	4.8%	23.8%	33.3%	38.1%	100.0%	
		それ以外の2人世帯	度数	1	2	16	19	38
		%	2.6%	5.3%	42.1%	50.0%	100.0%	
	合計	度数	8	72	137	277	494	
		%	1.6%	14.6%	27.7%	56.1%	100.0%	
女性	家族形態1	ひとり暮らし	度数	7	62	137	192	398
		%	1.8%	15.6%	34.4%	48.2%	100.0%	
		高齢者夫婦	度数	4	35	107	233	379
		%	1.1%	9.2%	28.2%	61.5%	100.0%	
		高齢者2人世帯	度数	0	4	14	17	35
		%	.0%	11.4%	40.0%	48.6%	100.0%	
		それ以外の	度数	1	29	72	77	179
		%						

	2人世帯	%	.6%	16.2%	40.2%	43.0%	100.0%
合計	度数		12	130	330	519	991
	%		1.2%	13.1%	33.3%	52.4%	100.0%

3) 孤立不安 (①孤独死不安、②頼れる人がいないことの不安、③孤独感)

①孤立死不安

この調査では、生活上の不安の項目で、「最期を一人で迎えるのではない不安」という問いをもうけた。この問いに対して、「そうである」と答えた人は、ひとり暮らし高齢者の44.6%であり、ついで、高齢者2人世帯36.2%、高齢者夫婦世帯24.0%と続き、それ以外の世帯が20.1%で最も少なかった。ひとり暮らしということで、高齢者が孤独死不安を抱きやすいことは理解できるが、高齢者2人世帯が他に比べて特に孤独死不安を抱きやすい理由はなんだろうか。

また性別でみると、全体的には孤独死への不安は、高齢者2人世帯を除き、男性より女性に強い。世帯別にみると、ひとり暮らし世帯では、男性42.0%に対して女性45.0%であるから、やや女性が高い。高齢者夫婦では男性22.1%に対して女性26.6%であり、これもやや女性が高い。高齢者2人世帯では男性43.8%に対して女性33.3%と逆に男性の方が高い。またそれ以外の2人世帯では男性6.7%に対して女性22.8%で女性がかかなり高い。

表26 家族形態1 と 孤独死への不安 のクロス表

			孤独死への不安		合計
			そう思う	そう思わない	
家族形態1	ひとり暮らし	度数	199	247	446
		%	44.6%	55.4%	100.0%
	高齢者夫婦	度数	161	509	670
		%	24.0%	76.0%	100.0%
	高齢者2人世帯	度数	17	30	47
		%	36.2%	63.8%	100.0%
	それ以外の2人世帯	度数	40	159	199
		%	20.1%	79.9%	100.0%
合計		度数	417	945	1362
		%	30.6%	69.4%	100.0%

表27 家族形態1 と 孤独死への不安 と 性別 のクロス表

性別			孤独死への不安		合計	
			そう思う	そう思わない		
男性	家族形態1	ひとり暮らし	度数	34	47	81
		%		42.0%	58.0%	100.0%
		高齢者夫婦	度数	66	247	313
			%		21.1%	78.9%
		高齢者2人世帯	度数	7	9	16

		%	43.8%	56.3%	100.0%	
	それ以外の2人世帯	度数	2	28	30	
		%	6.7%	93.3%	100.0%	
合計		度数	109	331	440	
		%	24.8%	75.2%	100.0%	
女性	家族形態1	ひとり暮らし	度数	163	199	362
			%	45.0%	55.0%	100.0%
		高齢者夫婦	度数	93	256	349
			%	26.6%	73.4%	100.0%
		高齢者2人世帯	度数	10	20	30
			%	33.3%	66.7%	100.0%
		それ以外の2人世帯	度数	38	129	167
			%	22.8%	77.2%	100.0%
合計		度数	304	604	908	
		%	33.5%	66.5%	100.0%	

これまでの孤独死不安調査で使用されていた質問「「孤独死を身近な問題と感じるか」もこの調査では使ったが、4自治体調査で行った質問では、ひとり暮らしが、鹿児島市53.7%、南さつま市53.7%、南大隅町66.1%、喜界町49.7%となっており、南九州市の56.8%はだいたい中間からやや高いところである。

家族形態別では、この質問の場合も、ひとり暮らしに続いて高齢者2人世帯が51.1%と高い。

性別による差は、全体的には女性の方が感じる人がやや多いようである。（男性43.0%、女性49.3%）世帯によってはまちまちである。ひとり暮らしの場合は、男性53.3%に対して女性57.4%、高齢者夫婦は男性38.9%に対して女性46.4%、高齢者2人世帯は男性66.7%に対して女性42.3%、それ以外の2人世帯は男性43.8%に対して女性38.4%である。ひとり暮らし男女以上に、高齢者2人世帯の男性が6割を超えて「感じる」と答えている。

表28 家族形態1 と 孤独死を身近な問題と感じるか のクロス表

			孤独死を身近な問題と感じるか		合計
			感じる	感じない	
家族形態1	ひとり暮らし	度数	249	189	438
		%	56.8%	43.2%	100.0%
	高齢者夫婦	度数	282	372	654
		%	43.1%	56.9%	100.0%
	高齢者2人世帯	度数	23	22	45
		%	51.1%	48.9%	100.0%
	それ以外の2人世帯	度数	76	117	193
		%	39.4%	60.6%	100.0%
合計		度数	630	700	1330
		%	47.4%	52.6%	100.0%

表29 家族形態1 と 孤独死を身近な問題と感じるか と 性別 のクロス表

性別				孤独死を身近な問題と感じるか		合計	
				感じる	感じない		
男性	家族形態1	ひとり暮らし	度数	40	35	75	
			%	53.3%	46.7%	100.0%	
		高齢者夫婦	度数	117	184	301	
			%	38.9%	61.1%	100.0%	
		高齢者2人世帯	度数	12	6	18	
			%	66.7%	33.3%	100.0%	
		それ以外の2人世帯	度数	14	18	32	
			%	43.8%	56.3%	100.0%	
	合計			度数	183	243	426
				%	43.0%	57.0%	100.0%
女性	家族形態1	ひとり暮らし	度数	206	153	359	
			%	57.4%	42.6%	100.0%	
		高齢者夫婦	度数	160	185	345	
			%	46.4%	53.6%	100.0%	
		高齢者2人世帯	度数	11	15	26	
			%	42.3%	57.7%	100.0%	
		それ以外の2人世帯	度数	61	98	159	
			%	38.4%	61.6%	100.0%	
	合計			度数	438	451	889
				%	49.3%	50.7%	100.0%

③頼れる人がいないことの不安

「頼れる人がなく一人きりである」は、ひとり暮らし23.0%であるが、高齢者2人世帯も20.9%と高い。この数値は4自治体調査では、鹿児島市8.5%、南さつま市10.1%、南大隅町9.0%、喜界町10.1%よりはかなり高くなっている。これは4自治体調査そのもののサンプルのとり方の問題であり、むしろ、今回の数値の方が正確な数値であると言えるだろう。

性別で見ると、女性より男性の方が不安がやや大きいようであるが、ひとり暮らし男性のみならず、高齢者2人世帯の男性も不安が大きいことがわかる。

表30 家族形態1 と 頼れる人がなく一人きりである のクロス表

			頼れる人がなく一人きりである		合計
			そう思う	そう思わない	
家族形態1	ひとり暮らし	度数	96	322	418

	%	23.0%	77.0%	100.0%
高齢者夫婦	度数	35	590	625
	%	5.6%	94.4%	100.0%
高齢者2人世帯	度数	9	34	43
	%	20.9%	79.1%	100.0%
それ以外の2人世帯	度数	14	172	186
	%	7.5%	92.5%	100.0%
合計	度数	154	1118	1272
	%	12.1%	87.9%	100.0%

表31 家族形態1と頼れる人がなく一人きりである と 性別 のクロス表

性別				頼れる人がなく一人きりである		合計
				そう思う	そう思わない	
男性	家族形態1	ひとり暮らし	度数	20	56	76
			%	26.3%	73.7%	100.0%
		高齢者夫婦	度数	16	273	289
			%	5.5%	94.5%	100.0%
		高齢者2人世帯	度数	4	10	14
			%	28.6%	71.4%	100.0%
		それ以外の2人世帯	度数	3	25	28
			%	10.7%	89.3%	100.0%
		合計	度数	43	364	407
			%	10.6%	89.4%	100.0%
女性	家族形態1	ひとり暮らし	度数	75	265	340
			%	22.1%	77.9%	100.0%
		高齢者夫婦	度数	17	311	328
			%	5.2%	94.8%	100.0%
		高齢者2人世帯	度数	5	23	28
			%	17.9%	82.1%	100.0%
		それ以外の2人世帯	度数	11	147	158
			%	7.0%	93.0%	100.0%
		合計	度数	108	746	854
			%	12.6%	87.4%	100.0%

④孤独感

孤独感では全体として「よく思う」9.5%、「たまに思う」33.9%、「あまり思わない」56.6%になっている。家族形態別にみると、ひとり暮らしが「よく思う」16.3%、「たまに思う」44.4%と、最も孤独感が高い。ついで高齢者2人世帯で「よく思う」10.2%、「たまに思う」35.6%である。ついで、「それ以外の2人世帯」、「高齢者夫婦世帯」の順である。「高齢者夫婦」では「あまり思わない」が67.6%と3分の2である。

表32 家族形態1 と 暮らしていて孤独に思うこと のクロス表

			暮らしていて孤独に思うこと			合計
			よく思う	たまに思う	あまり思わない	
家族形態1	ひとり暮らし	度数	82	224	198	504
		%	16.3%	44.4%	39.3%	100.0%
	高齢者夫婦	度数	39	203	506	748
		%	5.2%	27.1%	67.6%	100.0%
	高齢者2人世帯	度数	6	21	32	59
		%	10.2%	35.6%	54.2%	100.0%
	それ以外の2人世帯	度数	20	76	139	235
		%	8.5%	32.3%	59.1%	100.0%
合計		度数	147	524	875	1546
		%	9.5%	33.9%	56.6%	100.0%

表33 家族形態1 と 暮らしていて孤独に思うこと と 性別 のクロス表

性別			暮らしていて孤独に思うこと			合計	
			よく思う	たまに思う	あまり思わない		
男性	家族形態1	ひとり暮らし	度数	15	34	40	89
			%	16.9%	38.2%	44.9%	100.0%
	高齢者夫婦	度数	16	87	242	345	
		%	4.6%	25.2%	70.1%	100.0%	
	高齢者2人世帯	度数	2	9	12	23	
		%	8.7%	39.1%	52.2%	100.0%	
	それ以外の2人世帯	度数	3	11	24	38	
		%	7.9%	28.9%	63.2%	100.0%	
	合計	度数	36	141	318	495	
		%	7.3%	28.5%	64.2%	100.0%	
女性	家族形態1	ひとり暮らし	度数	66	189	157	412
			%	16.0%	45.9%	38.1%	100.0%
	高齢者夫婦	度数	22	112	259	393	
		%	5.6%	28.5%	65.9%	100.0%	
	高齢者2人世帯	度数	4	12	19	35	
		%					

	%	11.4%	34.3%	54.3%	100.0%
それ以外の2人世帯	度数	17	62	114	193
	%	8.8%	32.1%	59.1%	100.0%
合計	度数	109	375	549	1033
	%	10.6%	36.3%	53.1%	100.0%

(3) その他の生活についての質問

1) 昼間の過ごし方、夜の過ごし方

調査の問題意識の一つに、2人家族でも昼間は一人であることが多いのではないかとという仮説があったが、このことを検証してみる。

① 昼間の過ごし方

昼間の過ごし方を聞いた質問では、ひとり暮らしの場合、「自宅で一人で過ごすことが多い」が62.8%であり、3分の2近い人が昼間も自宅で過ごしている。ついで、「昼間は外出していることが多い」が23.2%である。高齢者夫婦では、「自宅で家族と過ごすことが多い」が50.9%、「外出していることが多い」も33.2%であり、自宅で一人で過ごすのは、11.5%となっている。高齢者2人世帯の場合は、「自宅で家族と過ごすことが多い」35.7%、「自宅で一人で過ごすことが多い」28.6%、「外出していることが多い」26.8%となり、自宅で一人もある程度いることがわかる。それ以外の2人世帯では、「自宅で一人で過ごすことが多い」が42.2%でかなり多いことがわかる。ついで「外出していることが多い」が27.8%、「自宅で家族と過ごす」は、19.8%と2人世帯の中では最も少ない。やはり家族が仕事をもっており、昼間は一人ということも多いのだろう。

表34 家族形態1と昼間の過ごし方のクロス表

		昼間の過ごし方					合計		
		昼間は外出していることが多い	昼間は自宅で一人で過ごすことが多い	昼間は自宅で家族と過ごすことが多い	昼間は自宅で他の人と過ごすことが多い	昼間は他者と自宅で過ごすことが多い		その他	
家族形態	ひとり暮らし	度数	115	311	24	18	12	15	495
		%	23.2%	62.8%	4.8%	3.6%	2.4%	3.0%	100.0%
1	高齢者夫婦	度数	251	87	385	14	3	17	757
		%	33.2%	11.5%	50.9%	1.8%	.4%	2.2%	100.0%
	高齢者2人世帯	度数	15	16	20	4	0	1	56
		%	26.8%	28.6%	35.7%	7.1%	.0%	1.8%	100.0%
	それ以外の2人世帯	度数	66	100	47	13	4	7	237
		%	27.8%	42.2%	19.8%	5.5%	1.7%	3.0%	100.0%
合計		度数	447	514	476	49	19	40	1545
		%	28.9%	33.3%	30.8%	3.2%	1.2%	2.6%	100.0%

② 夜の過ごし方

夜の過ごし方に関しては、ひとり暮らしは84.3%が「自宅で一人で過ごす」と答えている。自宅で家族と過ごすは12.2%である。高齢者夫婦の場合は90.9%は、自宅で家族と過ごす。自宅で一人で過ごすは6.8%である。

高齢者2人世帯の場合は、自宅で家族と過ごすは、55.2%とかなり低くなる。これは昼間の場合とあまり変わらない。自宅で一人で過ごすが39.7%と多くなる。それ以外の場合は、自宅で家族と過ごすが74.5%、ついで自宅で一人で過ごすが20.4%となっていた。

上記からわかることは、ひとり暮らし高齢者の場合、確かに自宅で一人で過ごす人が多いが、高齢者2人世帯に関しては、夜一人でいる人がけっこう多いこと（55.2%）、そしてそれ以外の2人世帯の場合は、昼間一人でいる人が多いこと（42.2%）である。

表35 家族形態1 と 夜の過ごし方 のクロス表

	夜の過ごし方						合計	
	夜は外出 している ことが多 い	夜は自宅で 一人で過 すことが多 い	夜は自宅で 家族と過 すことが多 い	夜は自宅で 他の人と過 すことが 多い	夜は他者の 自宅で過 すことが多 い	その他		
家族形態1								
ひとり暮らし	度数	3	428	62	10	3	2	508
	%	.6%	84.3%	12.2%	2.0%	.6%	.4%	100.0%
高齢者夫婦	度数	8	52	699	4	3	3	769
	%	1.0%	6.8%	90.9%	.5%	.4%	.4%	100.0%
高齢者2人世帯	度数	2	23	32	1	0	0	58
	%	3.4%	39.7%	55.2%	1.7%	.0%	.0%	100.0%
それ以外の2人世帯	度数	2	48	175	6	2	2	235
	%	.9%	20.4%	74.5%	2.6%	.9%	.9%	100.0%
合計	度数	15	551	968	21	8	7	1570
	%	1.0%	35.1%	61.7%	1.3%	.5%	.4%	100.0%

こうした昼、夜の過ごし方については、男性と女性で違いがあるように思う。ひとり暮らし高齢者の特徴として男性より女性の方が自宅で一人で暮らすと答えた者がやや多い（男性55.1%、女性64.2%）逆に外出しているという者は男性に多い（男性37.1%、女性20.4%）ただし、自宅で家族と過ごす、自宅で他者と過ごす、他者の自宅で過ごすは、ともに女性が多くなっている。

2) 健康

5件法で健康聞いた結果では、「よくない」8.9%、「あまりよくない」27.1%であり、合わせると36.1%になる。「ふつう」が54.4%、「いい」7.4%、「とてもいい」2.1%と体の不健康を訴える高齢者が多い。

③ 医療機関にかかっているか

通院している人は全体の83.7%、健康状態が「よい」人でも61.7%は通院をしている。実に、8割以上の高齢者が通院している状況をどのように理解すべきか。2010年の厚労省調査（平成22年国民生活基礎調査の概況）によれば、65歳以上の通院率は67.9%という数字も出ており、これに比べると83.7%はかなり高い。

表34 現在の健康状態3段階 と 現在医療機関にかかっているか のクロス表

	現在医療機関にかかっているか		合計
	通院している	通院していない	

現在の健康状態3段階	よくない	度数	508	43	551
		%	92.2%	7.8%	100.0%
	ふつう	度数	703	154	857
		%	82.0%	18.0%	100.0%
	よい	度数	92	57	149
		%	61.7%	38.3%	100.0%
合計		度数	1303	254	1557
		%	83.7%	16.3%	100.0%

3) 体の状態 (聞こえるか、見えるか、話せるか、歩けるか)

「話し声は聞こえるか」では、普通は、全体で82.2%であるが、年齢とともに、この割合は低くなり、85歳以上では59.8%となり、4割程度の人は何らかの支障があるようである。目は見えるか」では、普通が全体で80.6%、やはりこの割合は、年齢とともに低くなり、85歳以上では65.9%まで下がる。「話ができるか」では、普通は86.7%、これも年齢とともに低くなっていき、85歳以上では69.6%となる。これら3つの中では、「聞こえるか」が最も年齢とともに低くなるものが多い。

「隣近所の移動」は「徒歩」が71.2%、杖が必要11.1%となる。特に「徒歩」は年齢とともに低下していく速度が高い。80歳から84歳では62.4%、85歳以上では31.0%になる。隣近所の移動が不自由になると、外出頻度も低くなっていくことがわかる。徒歩が可能な人は33.5%が「ほぼ毎日」外出しているが、電動カーや付き添い介助が必要な場合は、2~3%まで落ちる。

表35 年齢カテゴリー と 話し声は聞こえるか のクロス表

	話し声は聞こえるか				合計		
	普通	耳元で大声で話せば聞こえる	かなり聞こえにくい	ほとんど聞こえない			
年齢カテゴリー	65-69歳	度数	204	3	3	0	210
		%	97.1%	1.4%	1.4%	.0%	100.0%
—	70-74歳	度数	294	15	5	1	315
		%	93.3%	4.8%	1.6%	.3%	100.0%
	75-79歳	度数	337	29	12	5	383
		%	88.0%	7.6%	3.1%	1.3%	100.0%
	80-84歳	度数	249	44	27	3	323
		%	77.1%	13.6%	8.4%	.9%	100.0%
	85歳以上	度数	192	91	35	3	321
		%	59.8%	28.3%	10.9%	.9%	100.0%
合計		度数	1276	182	82	12	1552
		%	82.2%	11.7%	5.3%	.8%	100.0%

表36 年齢カテゴリー と 目は見えるか のクロス表

			目は見えるか				合計
			普通	大きな活字がやっと見える	かなり見えにくい	ほとんど見えない	
年齢カテゴリー	65-69歳	度数	192	10	6	0	208
		%	92.3%	4.8%	2.9%	.0%	100.0%
	70-74歳	度数	276	18	20	4	318
		%	86.8%	5.7%	6.3%	1.3%	100.0%
	75-79歳	度数	328	34	21	2	385
		%	85.2%	8.8%	5.5%	.5%	100.0%
合計	度数	1255	159	129	15	1558	
	%	80.6%	10.2%	8.3%	1.0%	100.0%	

表37 年齢カテゴリー と 話ができるか のクロス表

			話ができるか				合計
			普通	ややはっきりしない	やっと他人に通じる	ほとんど通じない	
年齢カテゴリー	65-69歳	度数	203	2	3	1	209
		%	97.1%	1.0%	1.4%	.5%	100.0%
	70-74歳	度数	300	13	3	2	318
		%	94.3%	4.1%	.9%	.6%	100.0%
	75-79歳	度数	348	19	9	6	382
		%	91.1%	5.0%	2.4%	1.6%	100.0%
合計	度数	1358	130	56	22	1566	
	%	86.7%	8.3%	3.6%	1.4%	100.0%	

表38 年齢カテゴリー と 隣近所の移動 のクロス表

			隣近所の移動					合計
			徒歩	杖が必要	手押し車が必要	電動カーが必要	付き添い介助が必要	

年齢カテゴリ	65-69歳	度数	199	4	0	0	6	209
		%	95.2%	1.9%	.0%	.0%	2.9%	100.0%
	70-74歳	度数	293	12	1	1	6	313
		%	93.6%	3.8%	.3%	.3%	1.9%	100.0%
	75-79歳	度数	312	35	20	4	10	381
		%	81.9%	9.2%	5.2%	1.0%	2.6%	100.0%
	80-84歳	度数	206	48	48	7	21	330
		%	62.4%	14.5%	14.5%	2.1%	6.4%	100.0%
	85歳以上	度数	102	74	77	22	54	329
		%	31.0%	22.5%	23.4%	6.7%	16.4%	100.0%
合計		度数	1112	173	146	34	97	1562
		%	71.2%	11.1%	9.3%	2.2%	6.2%	100.0%

表39 隣近所の移動 と 生活に必要な外出 のクロス表

		生活に必要な外出					合計	
		ほぼ毎日	週3～4日程度	週1～2日程度	1ヶ月1～3回	ほとんどしない		
隣近所の移動	徒歩	度数	361	325	267	99	25	1077
		%	33.5%	30.2%	24.8%	9.2%	2.3%	100.0%
	杖が必要	度数	27	33	59	27	17	163
		%	16.6%	20.2%	36.2%	16.6%	10.4%	100.0%
	手押し車が必要	度数	17	33	31	37	17	135
		%	12.6%	24.4%	23.0%	27.4%	12.6%	100.0%
	電動カーが必要	度数	1	11	13	6	4	35
		%	2.9%	31.4%	37.1%	17.1%	11.4%	100.0%
	付き添い介助が必要	度数	3	11	8	21	43	86
		%	3.5%	12.8%	9.3%	24.4%	50.0%	100.0%
合計		度数	409	413	378	190	106	1496
		%	27.3%	27.6%	25.3%	12.7%	7.1%	100.0%

4) 介護保険について

①介護保険サービスの利用状況

介護保険の利用状況については、「認定を申請していない」73.9%、「認定を申請中」1.7%、「非該当認定を受けた」0.7%、「要支援1」5.6%、「要支援2」4.3%、「要介護1」3.0%、「要介護2」3.0%、「要介護3」1.6%、「要介護4」1.5%、「要介護5」1.3%、「わからない」3.4%である。少なくとも20.3%は認定者ということになる。

②利用している介護保険サービスの種類

利用している者の中で最も利用している者が多いのは「通所介護」で16.1%、ついで「訪問介護」3.2%、「その他」3.2%、「短期入所」1.5%、「居宅療養管理指導」0.5%、「利用していない」79.6%となっている。

③介護保険以外のサービス利用

介護保険以外のサービスでは、利用していない者が91.2%、利用している者の中では、訪問給食が3.8%で最も高かった。ついで「生きがい対応デイサービス」2.7%、「その他」1.7%、「JA・生協・シルバー人材等のホームヘルプ」0.9%、「有償・無償のボランティア」0.4%となっている。

④公的サービスへの気兼ね

公的サービスへの気兼ねがあるかを聞いた質問では「そうである」が16.6%、「ややそうである」が18.2%となっており、34.8%が気兼ねを感じている。（あまりそうではない16.1%、そうではない49.0%）

⑤介護が必要になった時にどこで介護を受けたいか

介護が必要になった時にどこで介護を受けたいかでは「自宅」が48.9%、ついで「病院などの医療機関」28.5%、「老人ホームなどの施設」19.4%、そして「わからない」18.8%である。「子どもの家」は4.0%、「親族の家」0.6%、「その他」0.9%である。

5) 食生活のこと

①食事の回数

全体で88.0%は「1日3食」と答えているが、ひとり暮らしでは82.3%、夫婦92.8%、高齢者2人世帯89.8%、それ以外の2人世帯84.8%である。ひとり暮らしの中でも男性は73.5%と他に比べ低くなっている。これは女性84.1%に比べ、10%以上開きがある。

表40 家族形態1 と 食事の回数 と 性別 のクロス表

性別	食事の回数					合計			
	1日3食	1日3食だが2食もある	1日2食が多い	1日2食だが1食もある	その他				
男性	家族形態1	ひとり暮らし	度数	72	12	11	3	0	98
			%	73.5%	12.2%	11.2%	3.1%	.0%	100.0%
	高齢者夫婦	度数	337	15	8	2	2	364	
		%	92.6%	4.1%	2.2%	.5%	.5%	100.0%	
	高齢者2人世帯	度数	18	3	1	0	0	22	
		%	81.8%	13.6%	4.5%	.0%	.0%	100.0%	
	それ以外の2人世帯	度数	32	4	2	1	0	39	
		%	82.1%	10.3%	5.1%	2.6%	.0%	100.0%	
	合計	度数	459	34	22	6	2	523	
		%	87.8%	6.5%	4.2%	1.1%	.4%	100.0%	
女性	家族形態1	ひとり暮らし	度数	366	44	16	2	7	435
			%	84.1%	10.1%	3.7%	.5%	1.6%	100.0%
	高齢者夫婦	度数	385	20	6	2	2	415	
		%	92.8%	4.8%	1.4%	.5%	.5%	100.0%	
	高齢者2人世帯	度数	34	2	0	0	0	36	
		%	94.4%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	

	%	94.4%	5.6%	.0%	.0%	.0%	100.0%
それ以外の2人	度数	172	16	8	3	2	201
世帯	%	85.6%	8.0%	4.0%	1.5%	1.0%	100.0%
合計	度数	957	82	30	7	11	1087
	%	88.0%	7.5%	2.8%	.6%	1.0%	100.0%

②食の困りごと

食の困りごとでは、全体に「栄養のバランスがとれない」16.2%、「作るのが面倒」15.9%、「買い物が大変である」13.0%、「献立がいつも同じ」10.5%などであるが、これらの困りごとは、ひとり暮らしがほとんどの項目で最も高い値になっている。

表41 家族形態1と食の困り事

			家族形態1				
			ひとり暮らし	高齢者夫婦	高齢者2人世帯	それ以外の2人世帯	合計
食の困り事	作るのが面倒	度数	101	96	10	42	249
		%	19.6%	12.7%	17.9%	17.6%	15.9%
	栄養のバランスがとれない	度数	120	80	6	48	254
		%	23.3%	10.6%	10.7%	20.1%	16.2%
	献立がいつも同じ	度数	69	65	7	23	164
		%	13.4%	8.6%	12.5%	9.6%	10.5%
	買い物が大変	度数	99	66	8	30	203
		%	19.2%	8.8%	14.3%	12.6%	13.0%
	一人で食べるこ	度数	78	12	2	17	109
	とが多く寂しい	%	15.1%	1.6%	3.6%	7.1%	7.0%
	作りすぎてしま	度数	58	51	3	18	130
	す	%	11.2%	6.8%	5.4%	7.5%	8.3%
	その他	度数	27	19	6	15	67
		%	5.2%	2.5%	10.7%	6.3%	4.3%
	特にな	度数	240	523	34	125	922
		%	46.5%	69.4%	60.7%	52.3%	58.9%
合計	度数	516	754	56	239	1565	

			家族形態 1				
			ひとり暮らし	高齢者夫婦	高齢者 2 人世帯	それ以外の 2 人世帯	合計
食の困 り事	作るのが面倒	度数	101	96	10	42	249
		%	19.6%	12.7%	17.9%	17.6%	15.9%
	栄養のバランス	度数	120	80	6	48	254
	がとれない	%	23.3%	10.6%	10.7%	20.1%	16.2%
	献立がいつも同	度数	69	65	7	23	164
	じ	%	13.4%	8.6%	12.5%	9.6%	10.5%
	買い物が大変	度数	99	66	8	30	203
		%	19.2%	8.8%	14.3%	12.6%	13.0%
	一人で食べるこ	度数	78	12	2	17	109
	とが多く寂しい	%	15.1%	1.6%	3.6%	7.1%	7.0%
	作りすぎてしま	度数	58	51	3	18	130
	す	%	11.2%	6.8%	5.4%	7.5%	8.3%
	その他	度数	27	19	6	15	67
		%	5.2%	2.5%	10.7%	6.3%	4.3%
	特にない	度数	240	523	34	125	922
		%	46.5%	69.4%	60.7%	52.3%	58.9%
合計		度数	516	754	56	239	1565
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

④ 栄養度得点

穀類、イモ類、果物など12品目を毎日取っているものをあげてもらい、合計したところ、以下のような結果になっている。上の結果からひとり暮らしの男性の栄養得点が低いかと予想し、そのような結果が出ているが(5.38)、ただそれ以上に「それ以外の2人世帯」の男性の栄養得点が4.95ともっとも低くなっていた。

表42 栄養得点

家族形態 1	性別	男性	女性	合計	度数
ひとり暮らし	平均	5.3814	6.5795	6.3631	
	度数	97	440	537	
高齢者夫婦	平均	6.7253	7.3468	7.0540	
	度数	375	421	796	
高齢者 2 人世帯	平均	5.5652	7.3947	6.7049	
	度数	23	38	61	
それ以外の 2 人世帯	平均	4.9500	6.2379	6.0285	
	度数	40	206	246	
合計	平均	6.2991	6.8362	6.6610	

度数	535	1105	1640	
----	-----	------	------	--

⑤ 生鮮食料品の買い物

「生鮮食料品を買えるお店が500メートル以内（歩いて10分程度）にありますか」とたずねて、お店が「ある」と答えた人は40.4%、「ない」が58.3%、「わからない」が1.3%となっていた。実に約6割の人はないと答えている。この点は地域によって事業が異なるだろうと思い、旧自治体別、学校区別に集計を試みた。

旧自治体別でみると、それほど差はないが、学校区別にみると、大きな差が見られる。「ある」が6割以上の地区は、宮脇校区64.4%だけであり、5割も別府校区59.1%、川辺校区55.8%、知覧校区51.4%、松山校区50.0%くらいである。手簀校区は、「ない」が100%、神殿校区も95.2%、その他御領校区87.7%、大丸校区86.7%、栗ヶ窪校区83.3%、田代校区79.3%、高田校区75.0%と「ない」が7割を超える地区がこれだけある。

食の砂漠（生鮮食料品を売っているお店が身近にないこと）は、高齢者の食料摂取、引いては健康度に影響すると言われるが、確かに、お店の多い校区の方が、栄養得点が高い傾向があるように見える。ただ御領地区などは、店がない割りには栄養得点は高かった。

生鮮食料品が500メートル以内にあるかないかで栄養得点をみると、確かに「ある」と答えた方が、有意に（t検定）高かった。（有意確率0.02）

表43 各小学校区 と 生鮮食料品を買える店が500m以内にあるか のクロス表

	生鮮食料品を買える店が500m以内にあるか			合計	栄養得点
	ある	ない	わからない		
各小学校区 郡地区	度数	26	51	3	80
	%	32.5%	63.7%	3.8%	100.0%
宮脇地区	度数	47	25	1	73
	%	64.4%	34.2%	1.4%	100.0%
栗ヶ窪地区	度数	7	35	0	42
	%	16.7%	<u>83.3%</u>	.0%	100.0%
御領地区	度数	8	64	1	73
	%	11.0%	<u>87.7%</u>	1.4%	100.0%
別府地区	度数	91	63	0	154
	%	59.1%	40.9%	.0%	100.0%
上別府地区	度数	25	44	0	69
	%	36.2%	63.8%	.0%	100.0%
手簀校区	度数	0	23	0	23
	%	.0%	<u>100.0%</u>	.0%	100.0%
知覧校区	度数	89	81	3	173
	%	51.4%	46.8%	1.7%	100.0%
中福良校区	度数	21	36	1	58
	%	36.2%	62.1%	1.7%	100.0%

浮辺校区	度数	16	28	1	45	
	%	35.6%	62.2%	2.2%	100.0%	6.4167
霜出校区	度数	28	49	1	78	
	%	35.9%	62.8%	1.3%	100.0%	<u>5.9540</u>
松山校区	度数	26	25	1	52	
	%	50.0%	48.1%	1.9%	100.0%	6.3443
松ヶ浦校区	度数	18	36	1	55	
	%	32.7%	65.5%	1.8%	100.0%	6.3684
大丸校区	度数	9	65	1	75	
	%	12.0%	<u>86.7%</u>	1.3%	100.0%	6.8690
勝目校区	度数	26	61	1	88	
	%	29.5%	69.3%	1.1%	100.0%	7.5638
川辺校区	度数	158	121	4	283	
	%	55.8%	42.8%	1.4%	100.0%	7.0740
高田校区	度数	12	39	1	52	
	%	23.1%	75.0%	1.9%	100.0%	6.2545
清水校区	度数	15	19	0	34	
	%	44.1%	55.9%	.0%	100.0%	<u>5.6053</u>
田代校区	度数	6	23	0	29	
	%	20.7%	79.3%	.0%	100.0%	6.4063
神殿校区	度数	1	20	0	21	
	%	4.8%	95.2%	.0%	100.0%	6.0000
合計	度数	629	908	20	1557	
	%	40.4%	58.3%	1.3%	100.0%	6.6307

⑥ 買い物の手段

買い物の手段としては、全体で「自分で運転する自家用車」とする者が46.9%と最も多く、ついで家族友人の運転する自家用車」14.8%、「徒歩、手押し車」12.2%となっている。「買い物をしない」という人も17.0%いる。

表44 買い物と性別のクロス表 (%のみ)

			性別		
			男性	女性	合計
買い物手段	自分の運転する自家用車	%	68.1%	36.5%	46.9%
	家族友人の運転する自家用車	%	6.0%	19.0%	14.8%
	自家用バイク	%	3.8%	4.9%	4.5%
	自転車	%	7.9%	5.0%	6.0%
	徒歩、手押し車	%	6.0%	15.2%	12.2%
	電動カー	%	1.7%	2.7%	2.4%

タクシー	%	2.3%	4.4%	3.7%
バス（ひまわりバスなど）	%	1.9%	6.5%	5.0%
電車・JR	%	.6%	.4%	.4%
その他	%	2.1%	7.4%	5.7%
買い物はしない	%	15.2%	17.8%	17.0%

6) 災害時や緊急時の避難

①災害時や緊急時の避難

「あなたは、災害時（台風や地震）や火災などの緊急時に一人で避難することができますか」という問いでは、「一人で避難できる」とする者は、ひとり暮らしで52.3%、高齢者夫婦で75.7%、高齢者2人世帯で59.6%、それ以外の世帯で49.8%となっている。全体では63.6%である。「大いに手助けがいる」はひとり暮らし21.3%、高齢者夫婦7.7%、高齢者2人世帯26.3%、それ以外の2人世帯15.2%となっている。全体で14.0%である。

表45 家族形態1 と 災害時の避難 のクロス表

	災害時の避難			合計	
	一人で避難できる	少し手助けがいる	大いに手助けがいる		
家族形態1 ひとり暮らし	度数	270	136	110	516
	%	52.3%	26.4%	21.3%	100.0%
高齡者夫婦	度数	580	127	59	766
	%	75.7%	16.6%	7.7%	100.0%
高齡者2人世帯	度数	34	8	15	57
	%	59.6%	14.0%	26.3%	100.0%
それ以外の2人世帯	度数	118	83	36	237
	%	49.8%	35.0%	15.2%	100.0%
合計	度数	1002	354	220	1576
	%	63.6%	22.5%	14.0%	100.0%

②手助けを頼める人はいるか

手助けを頼める人がいるかどうかでは、ひとり暮らしで頼める人が「いる」のは72.8%、27.2%は「いない」のである。他にもいないは2割ほどいる。

表46 家族形態1 と 手助けを頼める人 のクロス表

	手助けを頼める人		合計	
	いる	いない		
家族形態1 ひとり暮らし	度数	217	81	298
	%	72.8%	27.2%	100.0%
高齡者夫婦	度数	224	63	287
	%	78.0%	22.0%	100.0%

高齢者2人世帯	度数	25	8	33
	%	75.8%	24.2%	100.0%
それ以外の2人世帯	度数	110	21	131
	%	84.0%	16.0%	100.0%
合計	度数	576	173	749
	%	76.9%	23.1%	100.0%

③緊急時の対応サービス

「緊急時の対応に関しての次のようなサービスを受けたいと思いますか」と複数回答で聞いているが、全体で「緊急時に自分で操作する通報システム」が37.9%、「電話による会話や相談」が33.7%で比較的多い。あとは10%台である。ただし鍵の預かりだけは3.9%と低い。高齢者2人世帯だけは、「電話による会話や相談」が42.9%で、通報システムの24.5%よりだいぶ多くなっている。また見守りを受けたいとは思っていないも20.3%おり、なかでも「それ以外の2人世帯」は31.8%と高い。

表47 家族形態1と緊急時の対応のクロス表

		家族形態1				
		ひとり暮らし	高齢者夫婦	高齢者2人世帯	それ以外の2人世帯	合計
緊急時の対応	緊急時に自分で操作する通報システム	度数 150	271	12	65	498
	%	36.5%	41.1%	24.5%	33.3%	37.9%
	センサーなどを利用した自動通報システム	度数 81	136	8	36	261
	%	19.7%	20.6%	16.3%	18.5%	19.9%
	定期的な自宅訪問相談	度数 89	103	8	29	229
	%	21.7%	15.6%	16.3%	14.9%	17.4%
	電話による会話や相談	度数 132	245	21	45	443
	%	32.1%	37.2%	42.9%	23.1%	33.7%
	緊急連絡先の保管	度数 78	135	4	31	248
	%	19.0%	20.5%	8.2%	15.9%	18.9%
	緊急時に備えた鍵の預かり	度数 27	17	2	5	51
	%	6.6%	2.6%	4.1%	2.6%	3.9%
	見守りサービスを受けた いとは思っていない	度数 69	128	8	62	267
	%	16.8%	19.4%	16.3%	31.8%	20.3%
合計	度数	411	659	49	195	1314
	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

7) 日常生活の心配ごと

日常生活の心配ごととして、13項目をとりあげ、それらに対して、一つずつシングルアンサーの形で、

1. そう思う 2. そう思わない で問うた。ここでは「そう思う」と答えた人が多かった順に結果を示す。

① 社会の仕組みがわかりにくい 47.1%

この項目には、最も数多くの人が「そう思う」と答えている。社会の動きの速さ、制度等の変更など、高齢者にとってめまぐるしく変化する社会に対応できないということがあるのではないか。行政等から送られてくる文書等がわからなくて困っているという話も聞く。ひとり暮らし 53.0%、夫婦 41.4%、高齢者 2人世帯 47.7%、それ以外の 2人世帯 52.9%、全体で 47.1%が「そう思う」と答えている。

② 外出時の転倒や事故 46.3%

ほとんど同じくらいだが、2番目は外出時の転倒や事故である。足腰が弱ってきて、転倒等について心配になっているようである。ひとり暮らし 55.1%、夫婦 37.8%、高齢者 2人世帯 50.0%、それ以外の 2人世帯 53.8%である。

③ 収入が少ない 44.0%

収入が少ないに言及している人は大変多い。これは最後の収入に関するデータをみるとわかるが、かなり低い所得で生活されている方も多く、こうした点が不安として現れる。ひとり暮らしは 49.5%が「そう思う」と答えているが、高齢者夫婦世帯はより多く、59.6%であり、それ以外の 2人世帯でも 49.2%がそうである。

④ 健康がすぐれなかつたり病気がちである 43.2%

健康面での不安は高齢者にとって大きく他の調査研究でも不安、心配ごととして多く言及されている。今回ひとり暮らし 46.3%、夫婦 39.7%、高齢者 2人世帯 42.9%、それ以外の 2人世帯 48.5%と多くの人が不安に感じている。逆にこの項目よりも多い項目が3つもあることが驚きである。

⑤ 孤独死への不安（最期を一人で迎えるのではないかな不安） 30.6%

この項目についてはすでに議論している。

⑥ 家事が大変である 30.6%

「家事が大変である」は、ひとり暮らしに特に多い問題であると思われ、確かに 38.3%が「そう思う」と答えているが、高齢者 2人世帯も 33.3%、それ以外の 2人世帯でも 31.3%、そして夫婦でも 25.3%と一定数の言及がある。

⑦ 財産や墓の管理 26.0%

財産や墓の管理に関してもひとり暮らし 30.8%、夫婦 22.9%、高齢者 2人世帯 31.0%、それ以外の 2人世帯 25.0%と一定数の言及がある。特に、ひとり暮らし、高齢者 2人世帯では、3割以上の言及がある。

⑧ 子どもや孫のこと 23.3%

具体的なことはわからないが、「子どもや孫のこと」にも一定の言及がある。特に高齢者以外の 2人世帯では、30.5%である。子や孫と実際に同居しているからであろう。

⑨ 介護を必要としている 21.3%

「介護を必要としている」では、ひとり暮らし 27.9%、夫婦 15.9%、高齢者 2人世帯 27.3%、それ以外の 2人世帯 24.2%と2割程度の方は不安を訴えている。ちなみに、「介護を必要としている」人のうち、介護認定の申請をしていない人が 81名、認定を申請中が 14名、非該当認定を受けた人が 3名、わからないという人が 6名いた。

⑩ 金銭管理が苦手 18.4%

金銭管理が苦手とする人は、ひとり暮らしで 21.6%、夫婦 15.2%、高齢者 2人世帯 26.2%、それ以外の 2人

世帯 20.6%である。財産管理等を含め、一定のニーズが見られる。成年後見制度や金銭管理に関しては社協が行っている日常生活自立支援事業等の活用も考えられる。

⑪ 人との付き合いがうまくいかない 12.7%

「人との付き合いがうまくいかない」は、全体としては言及の少ない項目であるが、それでも一割以上の高齢者に言及されている。

⑫ 頼れる人がなく一人きりである 12.1%

この項目については、社会的孤立として言及した。全体としては、言及の少ない項目であるが、ひとり暮らし、高齢者2人世帯では2割以上の言及がある。

⑬ だまされたり、犯罪に巻き込まれた、巻き込まれている 9.0%

全体として比率は低いものの、深刻な内容の項目である。特に夫婦を除くと、1割以上の人が「そう思う」と答えている

これらの値は、筆者がこれまで手がけてきた調査の中では、全体にかなり数値が高くなっている。

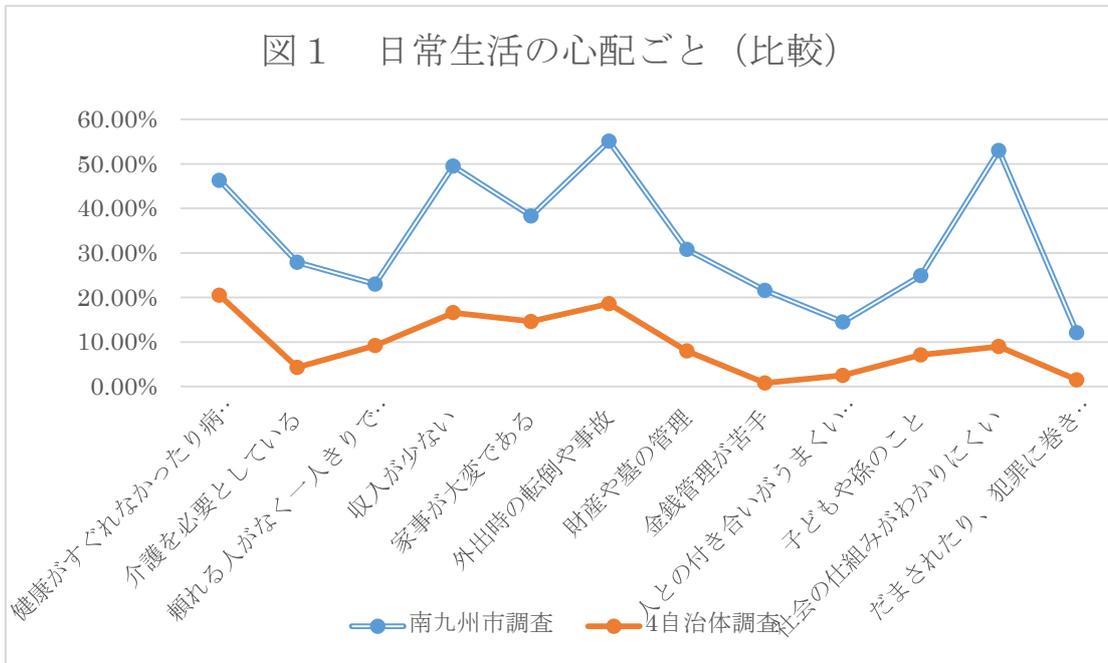
以下のグラフは、南九州市調査のひとり暮らし高齢者のデータと4自治体ひとり暮らし高齢者調査のデータを比較したものである。南九州市調査データがグラフの形そのものは、よく似ているにもかかわらず、4自治体調査に比べて、値がかなり高いことがわかる。質問項目はほぼ同じでありながら4自治体調査では1つの質問の中の複数の問いの形で質問をし、南九州市調査では、一つ一つを質問項目としてシングルアンサーで聞いた。

どうもこうした形式にしたことで、二者択一的なニーズが引き出したのではないと思われる。

表48 日常生活の心配ごとと家族形態のクロス表

そう思う	家族形態1									
	ひとり暮らし		高齢者夫婦		高齢者2人世帯		それ以外の2人世帯		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
健康がすぐれなかったり病気がちである	199	46.3%	271	39.7%	21	42.9%	100	48.5%	591	43.2%
介護を必要としている	114	27.9%	104	15.9%	12	27.3%	48	24.2%	278	21.3%
頼れる人がなく一人きりである	96	23.0%	35	5.6%	9	20.9%	14	7.5%	154	12.1%
収入が少ない	206	49.5%	238	37.7%	28	59.6%	98	49.2%	570	44.0%
家事が大変である	158	38.3%	163	25.3%	15	33.3%	62	31.3%	398	30.6%
外出時の転倒や事故	236	55.1%	244	37.8%	22	50.0%	106	53.8%	608	46.3%
財産や墓の管理	126	30.8%	145	22.9%	13	31.0%	49	25.0%	333	26.0%
金銭管理が苦手	88	21.6%	95	15.2%	11	26.2%	39	20.6%	233	18.4%
人との付き合いがうまくいかない	59	14.5%	68	10.8%	5	11.9%	29	15.3%	161	12.7%
子どもや孫のこと	97	24.9%	126	20.1%	10	27.0%	57	30.5%	290	23.3%
社会の仕組みがわかりにくい	218	53.0%	260	41.4%	21	47.7%	101	52.9%	600	47.1%
だまされたり、犯罪に巻き込まれた、巻き込まれている	50	12.1%	42	6.5%	5	11.6%	20	10.3%	117	9.0%
孤独死への不安	199	44.6%	161	24.0%	17	36.2%	40	20.1%	417	30.6%

図1 日常生活の心配ごと（比較）



8) 日常生活でやってほしいこと

日常生活でやってほしいことの中からは、「ちょっとした家の補修」31.6%、「庭・植木鉢の散水や剪定や草むしり」30.0%、「ちょっとした家電の修理や配線の点検」26.8%、「ゴミ出しの手伝い」25.8%、「台風時の戸締まり」25.7%、「ちょっとした水道の補修」25.3%、「電球の取り替え」24.6%、「ご近所の方からの声かけ」24.3%、「大掃除」24.0%、などであるが、特にひとり暮らしや高齢者2人世帯での要望が高いようである。

表49 家族形態1と日常生活でやってほしいこと（%のみ）クロス表

	家族形態1					合計
	ひとり暮らし	高齢者夫婦	高齢者2人世帯	それ以外の2人世帯		
日常生活でやってほしいこと						
ゴミ出しの手伝い	29.8%	21.5%	30.6%	27.2%	25.8%	
電球の取り替え	34.6%	17.3%	27.8%	20.8%	24.6%	
ご近所の方からの声かけ	23.9%	24.2%	33.3%	23.2%	24.3%	
買い物の支援	20.1%	10.9%	22.2%	9.6%	14.5%	
庭・植木鉢の散水や剪定や草むしり	31.4%	28.7%	47.2%	25.6%	30.0%	
布団干し	24.3%	17.8%	13.9%	20.8%	20.4%	
郵便物の投函	5.2%	5.1%	5.6%	3.2%	4.8%	
廃品の回収	20.1%	17.6%	19.4%	21.6%	19.1%	
散歩の手伝い	4.9%	3.2%	5.6%	5.6%	4.3%	
病院からの薬の受け取りなど連絡調整	11.7%	6.4%	2.8%	10.4%	8.7%	
台風時の戸締まり	34.3%	20.2%	11.1%	24.8%	25.7%	
外出時の支援	11.0%	6.6%	8.3%	5.6%	8.2%	
ペットの世話	1.3%	2.7%	5.6%	2.4%	2.2%	

ちょっとした家の補修	%	35.9%	26.9%	38.9%	32.8%	31.6%
大掃除	%	24.3%	23.7%	19.4%	25.6%	24.0%
ちょっとした家電の修理や配線の点検	%	31.4%	24.2%	16.7%	26.4%	26.8%
ちょっとした水道の補修	%	29.8%	22.3%	25.0%	23.2%	25.3%
山や畑の管理	%	17.5%	21.8%	36.1%	16.8%	20.1%
合計	%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

9) 経済的問題

この調査では、収入等の経済的問題についても質問をしている。仕事をしていないという人が、62.9%であったが、全体の収入を5段階で示すと以下のようになった。収入が5万円未満という人が14.1%、5万から10万円未満が41.0%であり、あわせると55.1%の人は10万円未満ということになる。

経済的暮らしぶりの意識を聞いた質問でも、全体で「余裕がある」は9.8%にすぎず、「普通」63.7%、「余裕はない」26.5%になっている。ことに高齢者2人世帯、それ以外の2人世帯での「余裕はない」が多い。

表50 家族形態1と月収5段階のクロス表

			月収5段階					合計
			5万円未満	5～10万円未満	10～15万円未満	15～20万円未満	20万円以上	
家族形態1	ひとり暮らし	度数	84	184	109	53	42	472
		%	17.8%	39.0%	23.1%	11.2%	8.9%	100.0%
	高齢者夫婦	度数	69	308	149	90	110	726
		%	9.5%	42.4%	20.5%	12.4%	15.2%	100.0%
	高齢者2人世帯	度数	8	28	13	3	3	55
		%	14.5%	50.9%	23.6%	5.5%	5.5%	100.0%
	それ以外の2人世帯	度数	47	84	49	22	17	219
		%	21.5%	38.4%	22.4%	10.0%	7.8%	100.0%
	合計	度数	208	604	320	168	172	1472
		%	14.1%	41.0%	21.7%	11.4%	11.7%	100.0%

表51 家族形態1と経済的暮らし向きとのクロス表

			経済的暮らし向き			合計
			余裕がある	普通	余裕はない	
家族形態1	ひとり暮らし	度数	52	311	137	500
		%	10.4%	62.2%	27.4%	100.0%
	高齢者夫婦	度数	80	509	175	764
		%	10.5%	66.6%	22.9%	100.0%
	高齢者2人世帯	度数	4	34	21	59
		%	6.8%	57.6%	35.6%	100.0%

それ以外の2人世帯	度数	17	136	79	232
	%	7.3%	58.6%	34.1%	100.0%
合計	度数	153	990	412	1555
	%	9.8%	63.7%	26.5%	100.0%

4. 考察

(1) 社会的孤立に関連した調査結果

社会的孤立の傾向が強いと予想されるのは、ひとり暮らし高齢者であった。そして確かに、高齢者夫婦世帯に比べるとほとんどの項目で孤立化の傾向が見られた。社会的接触において、特に会話の程度や社会活動において、その傾向が見られたが、近所づきあい等他の項目では、ひとり暮らしだけでなく、高齢者2人世帯やそれ以外の2人世帯でも、共通に低かった。その意味で、社会的孤立傾向は、ひとり暮らし高齢者のみならず、高齢者2人世帯や、若い人との同居の2人世帯の場合も、見られた。

またひとり暮らしの場合は、男性の社会的孤立の傾向が顕著であった。頼れる人もひとり暮らし男性は少なかった。男性一般的な特徴としてみると、女性に比べ、孤立傾向にあるが、ただ外出頻度や奉仕活動・ボランティア活動においては、女性よりも頻度が高いという傾向があった。男性は自動車を利用して広域的に活動し、外出頻度は高いが、他者との人間関係や交流は女性の方が盛んなようである。男性は外出はしているが、他者関係的ではないかもしれない。孤独死への不安や孤独感もひとり暮らし高齢者に多かったが、この場合は女性の方が多かった。親和的な女性は、主観的には孤立を感じやすいのかもしれない。男性の場合は、孤立は感じていなくても、客観的には孤立しているケースがみられるのではないかと。

(2) 昼間の過ごし方、夜の過ごし方—ひとり暮らしばかりでなく、高齢者2人世帯、その他の高齢者を含む2人世帯も孤立傾向がある。

予想したとおり、ひとり暮らし高齢者は昼間一人でいることが多いが、高齢者以外の2人世帯でもこの傾向は見られた。やはり、若い者が仕事に出かけている間は一人でいることも多いのだろう。夜、一人で過ごすのは、もちろんひとり暮らし高齢者が多いが、夜の場合は、高齢者2人世帯も多くなっている。

ひとり暮らしを性別でみると、男性より女性の方が自宅で一人でいる人がやや多かった。男性は外出している傾向があるが、自宅で家族と過ごす、自宅で他者と過ごす、他者の自宅で過ごすは、ともに女性が多くなっている。

(3) 健康と食事

通院している人は全体の83.7%、健康状態が「よい」人でも61.7%は通院をしている。

食事の回数は全体で88.0%は「1日3食」と答えているが、ひとり暮らしの男性は73.5%と他に比べ低くなっている。食の困り事でも「栄養のバランスがとれない」をはじめ、ほとんどの項目でひとり暮らしの割合が最も高くなっている。栄養得点もやはり、ひとり暮らしの男性が低いのではないかと予想し、確かにそのような結果は出ているが、それ以上に「それ以外の2人世帯」の男性の栄養得点が低かった。

生鮮食料品を売っているお店が身近にない問題では、地域差が大きかったが、身近にお店がないことは、栄養得点に有意に関連していた。

(4) 経済と高齢化

高齢になるほど、年金生活者が増え、経済的にはゆとりがなくなってくる。今回の調査でも月の収入が10万未満という人が5割を超えている。医療機関に通う人たちが8割を超えるなかで、医療費の負担は、高齢化とともに、大きなものになっていくだろう。

おわりに

今回の調査では、これまでの高齢者調査と共通した結果と、新たに発見された結果があった。これまでも一人暮らし男性高齢者の社会的孤立については議論されてきたが、孤立の質も男女差があるようだ。食事会や会食会、食事づくりの会を通して、孤立防止とともに生活力を増すこと、外に出て行けない人は、外から人がはいること、高齢者の社会貢献活動を意識的に開発することも重要であるだろうし、そのためには、必要に応じて、ソーシャルワーカー等の専門職と連携をとることも重要である。所得に低さから考えると、活動はできるだけ無料か、それに近い活動を進めることも留意しなければならない。医療機関に通う人の多さ、それは体の状態が悪い人でも医療機関には行く。その意味で医療機関を媒介とした社会的交流活動の可能性などにも言及していくべきだろう。いずれにしても、調査結果からあらたな活動や事業を興すのはこれからである。

最後に、調査に協力いただいた、南九州市の高齢者の方々、調査員として参加していただいた在宅福祉アドバイザーの方々、協働で研究を進めていただいた、行政や社協の関係者の皆様にお礼を申し上げる。

文献

河合克義 (2009) 『大都市のひとり暮らし高齢者と社会的孤立』 法律文化社

河合克義 「(2010) 高齢者の貧困と孤立ーひとり暮らし高齢者の貧困と社会的孤立ー」 貧困研究vol14 明石書店

黒岩亮子 (2010) 「都市高齢者の『孤立』と地域福祉の課題」 貧困研究vol14 明石書店

国立社会保障・人口問題研究所 <http://www.ipss.go.jp/ss-seikatsu/j/2012/seikatsu2012.asp>

(2013. 12. 28 参照)

タウンストール,ジェレミー (1978) 光信隆夫訳 『老いと孤独ー老年者の社会学的研究ー』 垣内出版

Tunstall,Jeremy.(1966) Old and Alone:A Sociological study of old people Rouledge &Kegan Paul.

タウンゼント,ピーター (1974) 山室周平監訳『居宅老人の生活と親族網ー戦後東ロンドンにおける実証的研究』,

垣内出版) Townsend, Peter, (1957) The Family Life of Old People, London: Penguin Books Ltd.

田中耕市・岩間信之・佐々木 緑: 「地方都市中心部における高齢者の孤立と住環境の悪化」 財団法人第一住宅建設協会 2007)

内閣府編集 (2011) 『平成 23 年版 高齢社会白書』 印刷通販

厚生労働省ホームページ「平成22年国民生活基礎調査の概況」(2013. 12. 28 参照)

<http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa10/3-2.htmlmmu>